

# 道 頓 堀

第九年 第六號

春好画



昭和二年十月廿五日 第三號 發行  
昭和九年六月一日發行 (一月一回)



裂 小・具道小  
裳 衣 貸

素人演藝會  
宴會の催物  
春秋温習會  
婚禮の衣裳

下用利御拘不に少多裳衣の般一他其  
くよ便利じ應に談相御の客來御いさ  
……………すまし致ひら計取お

松竹衣裳部

本 店  
東京支店

大阪市浪速區南坂町松竹ビル内  
電話 戎 五 六 三 四 番  
東京市淺草區駒形町二十三番地  
電話 淺草 六 六 六 一 番

風味必ず御意に召す

天ぶら御料理

季節日本御料理

芝居情緒と食道楽

# 喜久屋食堂

道頭堀式橋北詰

御芝居歸りには打揃ふて

是非お坐席で御會食を！

大阪支店

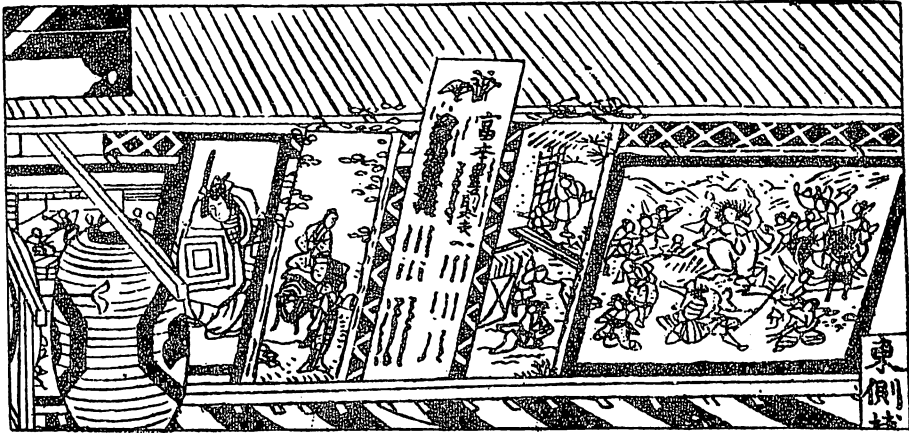
喜久屋均一店 心齋橋筋二丁目

菊屋 北新地裏町

京都支店

喜久屋京都支店 四條木屋町下ル





◆道頓堀・昭和九年六月號・第九十三輯◆

★繪 口★

◎六月の歌舞伎座◎ 雁治郎の梶原平三景時・幸四郎の武智光秀・魁車の嫁初菊延若の十次郎・尼ヶ崎の舞臺お種々・○幸四郎の長兵衛・高麗藏の權八・雁治郎の西屋金五郎・福助の女房お妙・扇雀の伴藤吉・壽三郎の澤田居久五郎・市藏の漁夫茂平・長三郎の太刀持鈍太郎・幸四郎の太郎冠者・幸四郎の鎌倉權五郎景政・三升の口上◎ 暫舞臺面・福助の近松門方衛門・魁車のおきん・壽三郎の夫太治兵衛・星合寺舞臺面・幸四郎の西郷吉之助・延若の仲居お玉・三津五郎の高頭◎ 中座松竹家庭劇◎ 十吾の回タク助手・東の八重子妹◎ 山田の節賣◎ 石河の嫁◎ 角座新派劇◎ 都築の宇佐美慎介・梅野井の咲子・中田の有吉・和歌浦の夫人・山口の川瀬・笈川の友人藤井・瀧の小枝子◎ 南座松竹少女歌劇◎ 水ノ江瀧子のポール他舞臺面・松竹ガクゲキ部の満洲出發記念寫眞◎

表紙 五世團十郎の暫……………(大阪歌舞伎座上演)  
扉 雁治郎の西屋金五郎……………(大阪歌舞伎座)

上演歌舞伎狂言解題……………世話垣鈍文(三)

最近の梶原……………菱田正男(五)

望の港雑話……………大橋孝一郎(七)

新劇の思出……………片山通夫(七)

石切の型の相違……………森みよし(三〇)

鷹吉の梶原……………辻田公紀(三〇)

の比較論……………



冷用  
銘酒

白雲

一盞！

清涼湧き陶然たる快味

灘・丹伊・津掇  
社會式株造酒西小



【石切棍原試名劔】 【夜の部】

梶原三景時  
中村鷹治郎

---

東 西 合 同 大 歌 舞 伎  
座 六 月 大 阪 歌 舞 伎

---



武智光秀

松本幸四郎



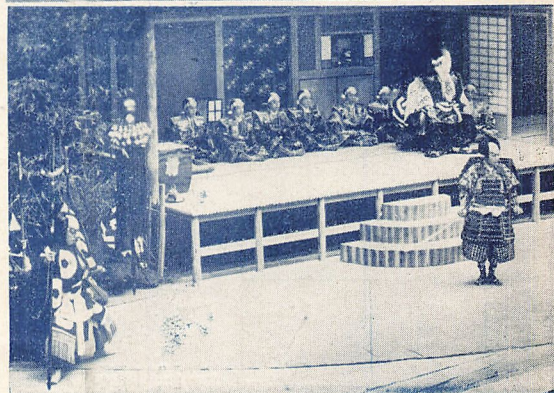
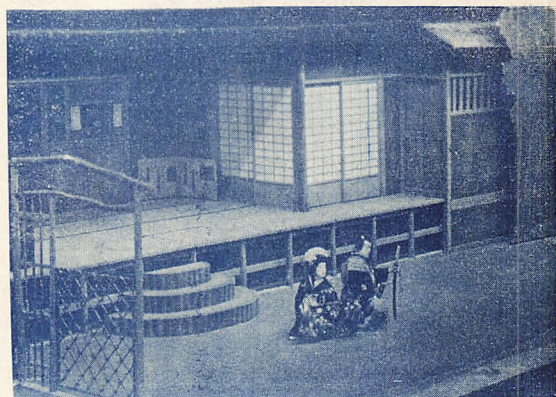
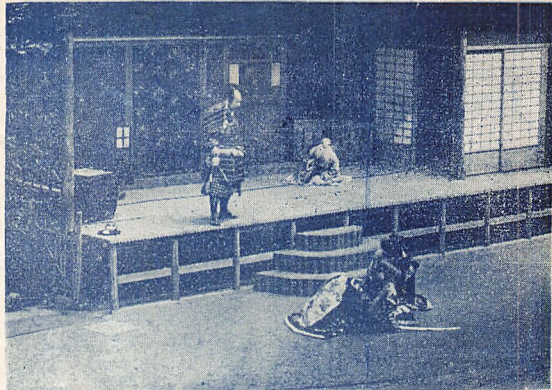
嫁初菊

中村魁車



武智十次郎

實川延若



ニ 面臺舞各段の崎ケ尼

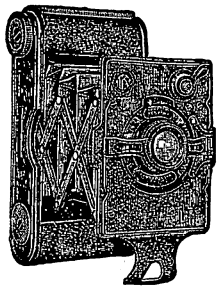
【部 の 畫】

記 功 太 本 繪

でま崎ケ尼リよ寺能本



# パレール カメラ



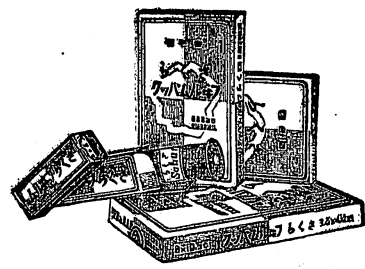
寫真器は……

小型で使ひ易い

パレール

(ウエスト判及十六枚撮り兼用)

高感光度・強整色性



到る處の寫真機店にあり

さくらクロフィルム

寫真器械及小型映畫器械

小西六次郎支店

【カタログ進呈】

大阪市南區長堀橋南

電話南  
三三二  
九三二  
八〇九  
三四二

アングロス井ス

ミルクチヨコレート

コーヒキヤラメル

チヨコレート

キヤラメル

チヨコメル

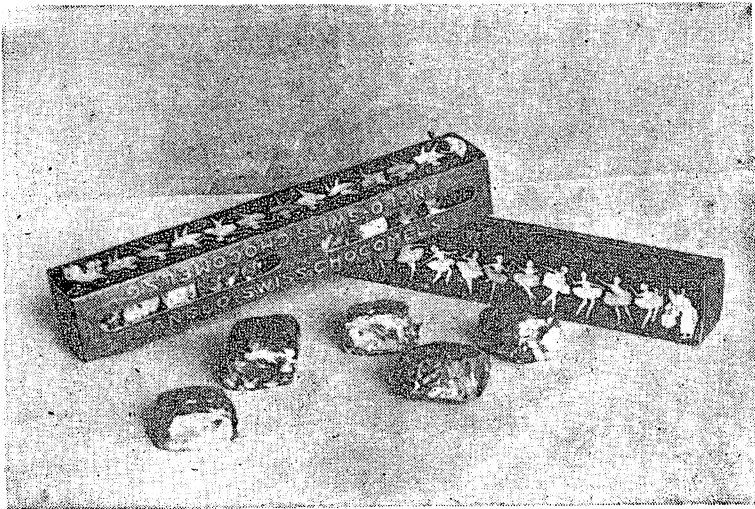
大阪市東區豊後町三番地

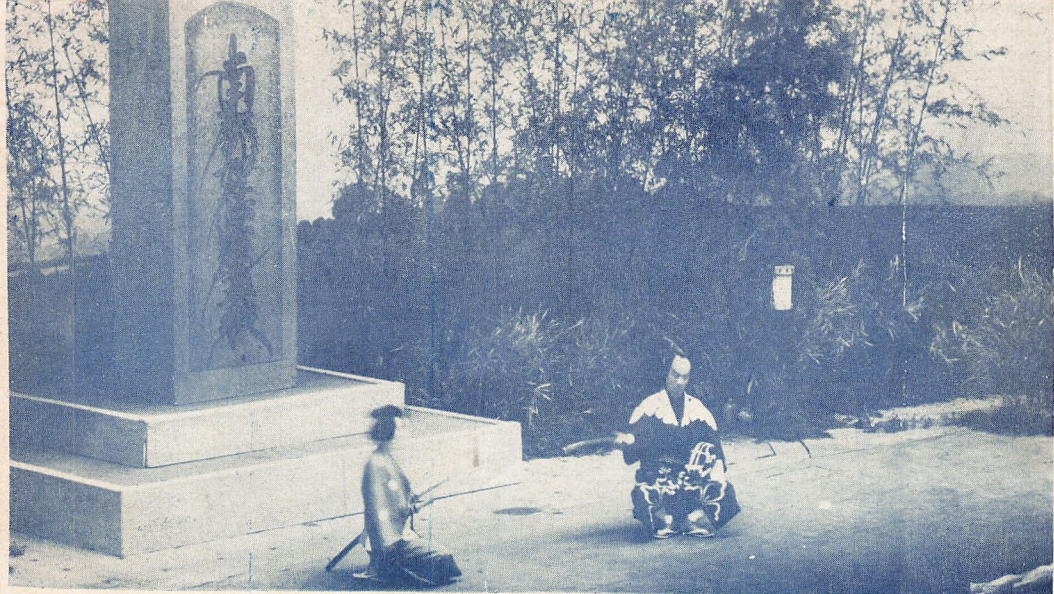
發賣元

株式會社

横山商店

電話東  
(94)  
四二一  
六〇六  
四一六  
九三番





面 臺 舞「森ヶ鈴」



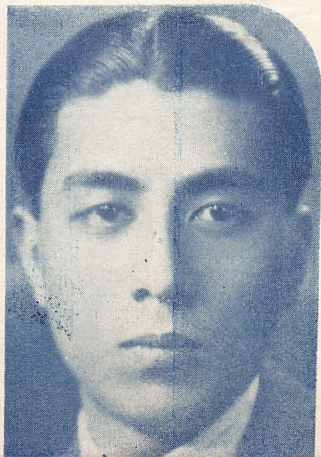
幡 隨 院 長 兵 衛

松 本 幸 四 郎

金 太 郎 改 め

松 本 高 麗 藏

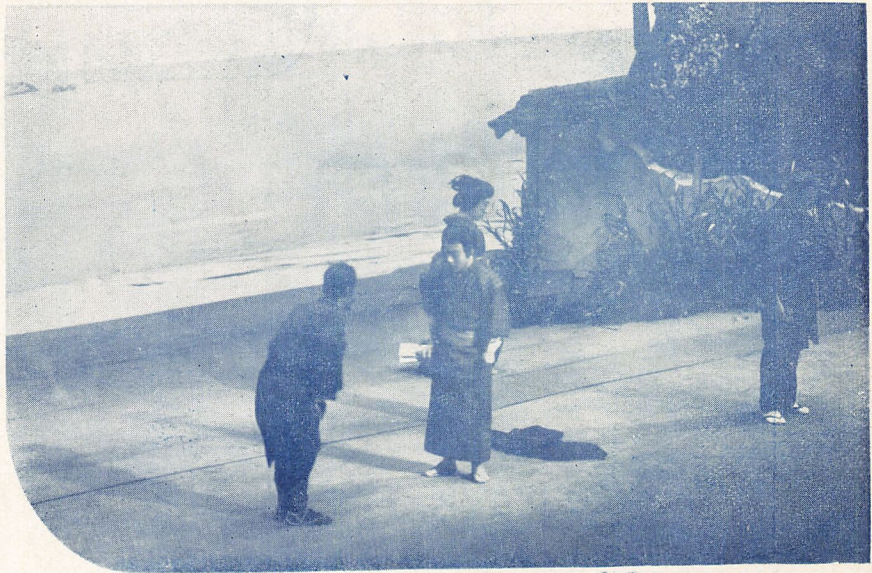
襲 名 披 露 狂 言 として  
「鈴ヶ林」の 權 八 七  
お 目 見 得



西屋金五郎：中村 鷹治郎：女房お妙：中村 福助



望  
の  
港



大成駒家鷹治郎が二枚目役  
と老ヶ役の心境を演分ける  
成駒家得意の世話物

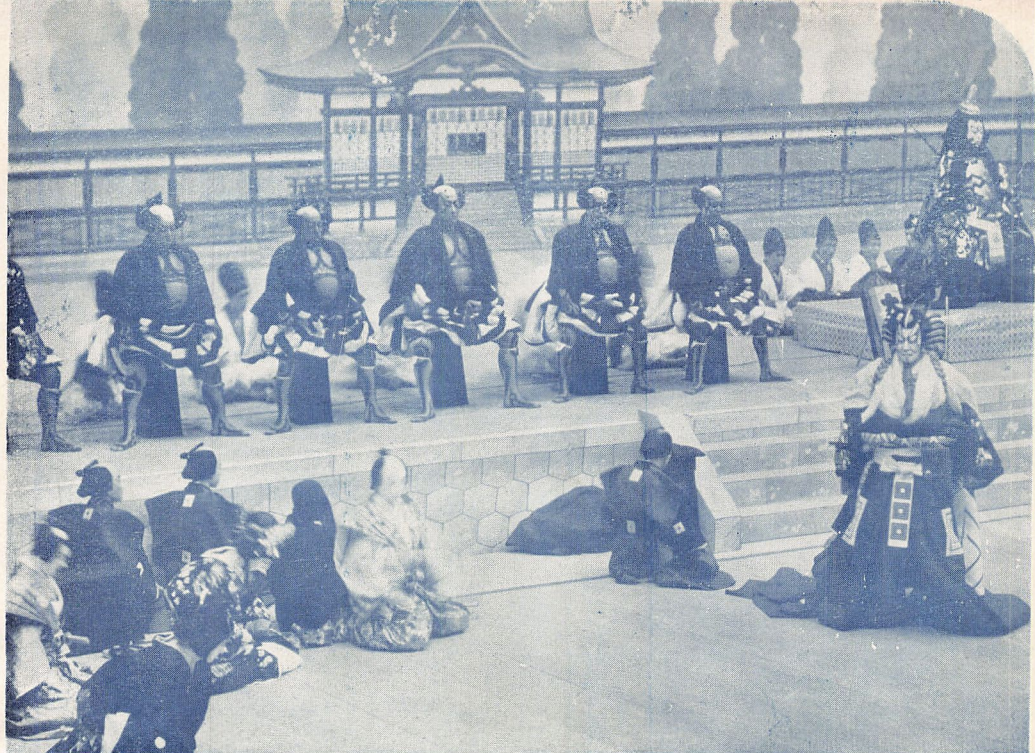
郎	三	壽	東	阪	郎	五	久	屋	田	澤
助	福	村	中	中	妙	吉	藤	お	伴	
雀	扇	村	中	中	郎	五	金	屋	西	
郎	治	鷹	市	市	平	茂	夫	漁		
藏	市	川								



落 襖 素



上……大刀持鈍太郎  
林長三郎  
左……太郎冠者  
松本幸四郎



歌舞伎十八番の上場に當り吉例による市川宗家の口上に市川三升の出場

【部の夜】

内の番八十伎舞歌

暫

政景郎五権倉鎌

郎四幸本松

近松とおさん

中村魁車 • おさん  
 中村福助 • 巢林近松門左衛門  
 阪東三郎 • おさん太夫治兵衛





鎌倉の星合寺へ大庭殿、俣野殿、梶原殿、夢詣あると云ふ日六郎太夫は娘と共に一振の名刀を大庭殿に賣りたいと申出たが俣野の差出口で二つ胴の切味を試されば買はぬ事になる、六郎太夫は我身をその試物に供へるが試切役の梶原はその心を案じてわざと六郎太夫を切損じ其の代り石の手洗鉢を眞二つに切つて名剣の切れ味を見せ自らその刃を購ふ——安永四年九月京都初演以來好評を博して度々上演されたる歌舞伎美絢爛な一幕。

梶原平三試名劍

星合寺舞臺面

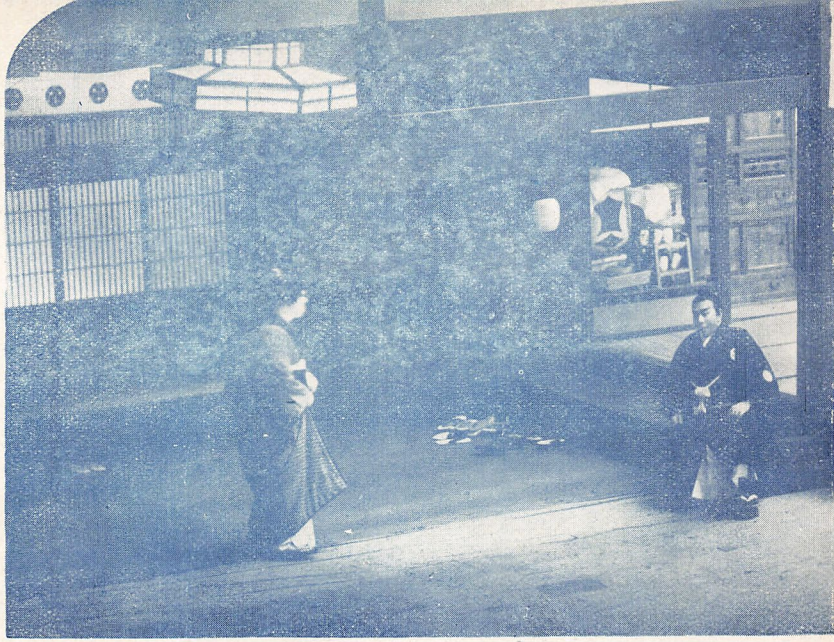


「西郷とぶた姫」舞臺面

勢  
獅  
子

鳶  
頭

坂東三津五郎



西郷  
とぶた  
姫

西郷吉之助

松本幸四郎

仲居お玉

實川延若





圓谷助松村住  
八重子の妹

十東  
愛子

初夏の怪談

---

自動車

---

中座家庭劇

---

怪異！  
優美な令嬢が自動車に乗つたのは確かだが降りたのか消へたのか……  
運ちゃんと助手の驚きは氣絶です。解く事の出来ぬ人生の不思議の事  
實！

大阪外市八尾

時 競大 臨

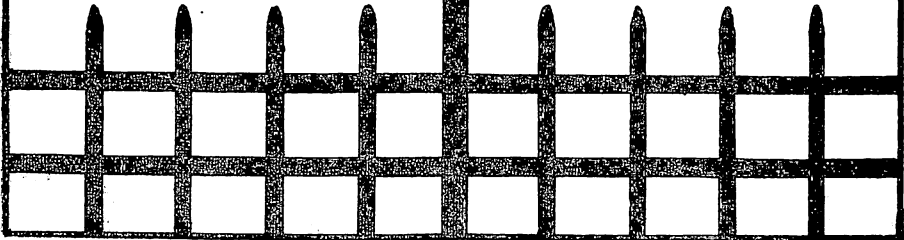
馬阪

午前十時発馬

・雨天順延・

四三二一 六月  
日日日日 月

(月) (日) (土) (金)



便所の防臭に困る方は今直ぐ

製創氏郎太彪林 士學藥



（錢拾五金小瓶一）  
（圓壹金大）

アポロは一つの便所に数滴乃至十滴撒すれば充分奏効します。又用便の度に一滴撒すると結構です。小人数に多量撒くことは反つていけません。アポロは不潔物から發生する悪臭を化學的變化により消臭します。従來の臭劑（樟腦油、ナフタリン、クレンゾール）等の如く藥の臭を以て防臭するものは異ひます。又數倍の効力があります。

凡て惡臭の場所、便所、其他大抵の場所へ毎日十滴乃至十數滴づゝ（場所の大小により多少の加減を要す）撒すべし。但し一回に多量撒布するも却つて力効を減ずる場合あり。



使用簡潔  
十滴奏合  
無害無毒

E X E

エキセ

陰囊疹特效新藥  
（無脂肪性溶液）

特色  
無痛  
無刺戟  
奏効迅速

エキセハ特ニ陰囊疹ニ對シ専門的ニ研究ヲナシ多年臨床實驗ヲ經タル新藥ニシテ從來ノ此種製劑ト同一視セラレザランコトヲ

〔全國有名藥店及デパートに有〕  
定價三〇・五〇・一〇〇

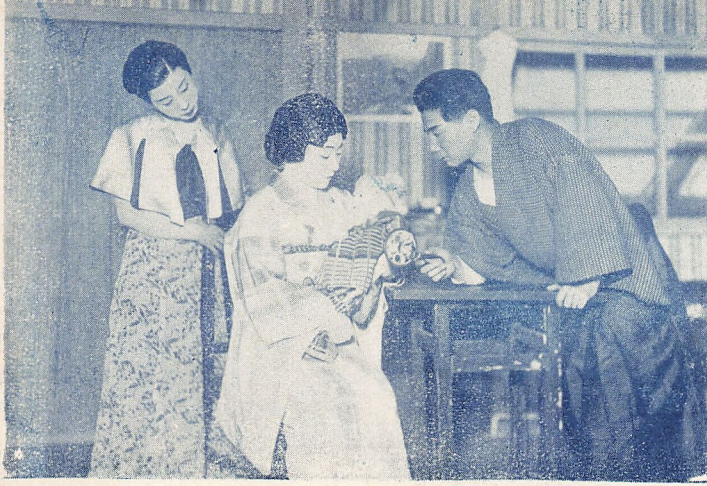
發賣元

光榮商會

大阪東區  
見町三丁目

電話本局三三一五  
振替穴三三三七一

軍國子守歌



艶歌館寶屋大下

女給 北村玲子

ダンサー 山美子

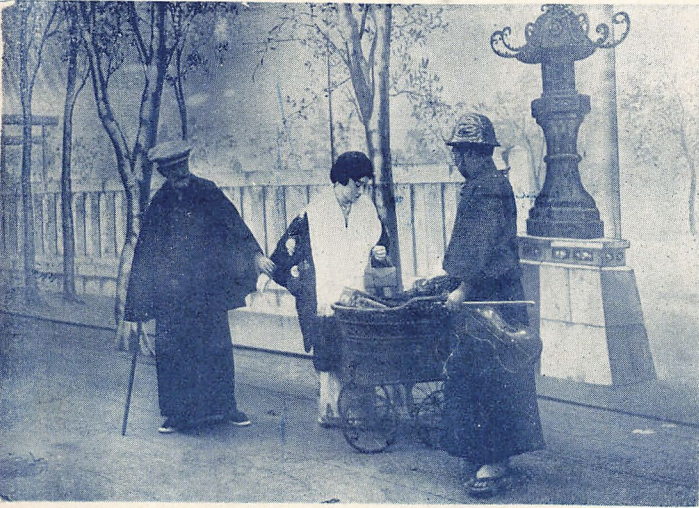
金貸 助川藤平

山田隆也

石川 薫

村田満智子

小織桂一郎



良妻賢母

父 伴 母 嫁

小 天 十 石

織 外 吾 河



座 角

劇 派 新



許婚の仲の慎介と映子が、越ゆるべからざる垣を越へた翌日、運命の皮肉は慎介の親友  
富豪の弟川瀬に、命の力で映子を奪はせた。裏切られた慎介が優しい小枝子の愛によつ  
て更生し。而して川瀬、映子、慎介、小枝子の四人によつて描かれる近代戀愛調！

男 文 築 都

介 慎 美 佐 宇

男 秀 井 野 梅

子 映 吉 有

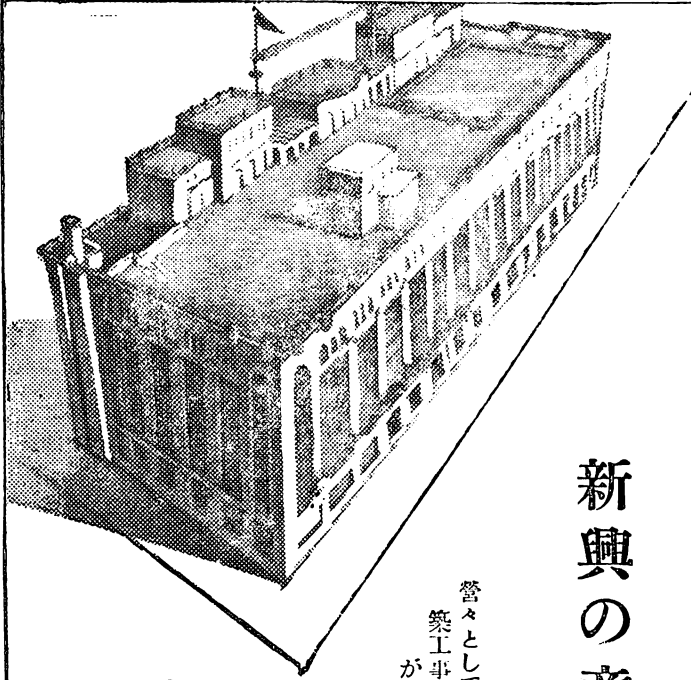
『座 星 の 上 地』

茶

西區女字何可睡

坐立半

南嘉安字三十三



# 新興の意氣



營々として目下南大阪に大建

築工事を進めて居ります松坂屋新館はや

がて堂々一万三千余坪、關西隨一の

大百貨店として新装を凝らし、

あらゆる清新の物資を網羅し、

諸の施設を完備して、ますます

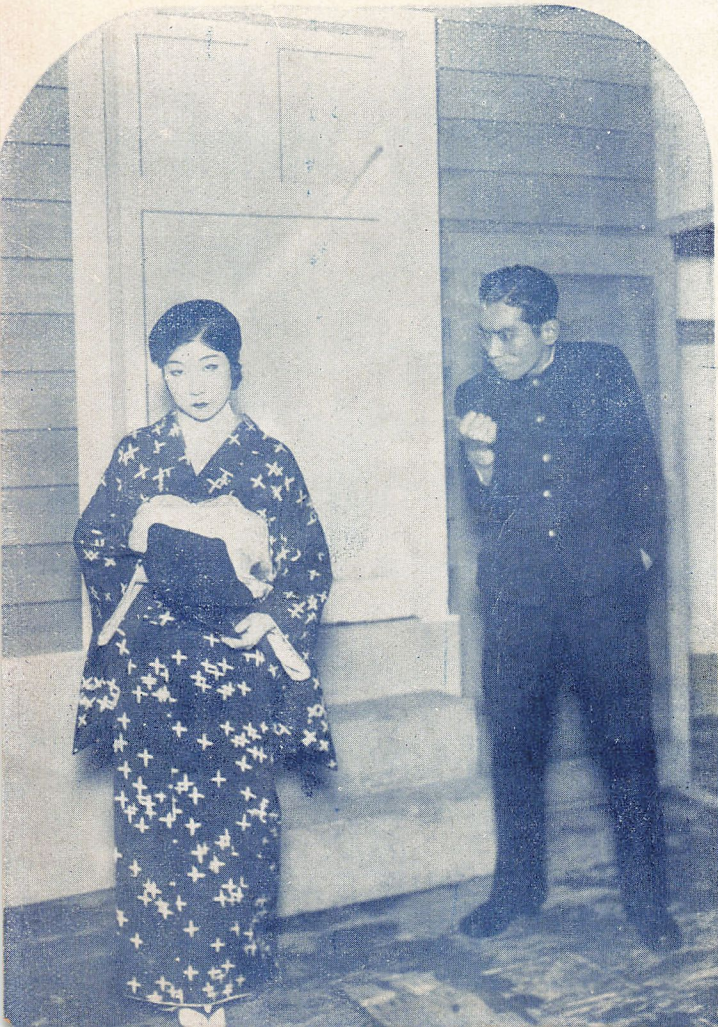
皆様の御愛顧に副ひ奉らむこゝ

を期して居ります……………

大 阪  
日 本 橋  
**松坂屋**



「地上の星座」



有吉夫人  
有吉重藏  
川瀬彰夫

和歌浦糸子  
中田正造  
山口俊雄

藤井三郎 笈川武夫：津田小枝子 瀧蓮子

六月の南座

××シヤボー・プランタン××

東京松竹少女歌劇京都第一回公演



シヤボー・プランタン——春の帽子——はフランスのラ  
ビツシュ原作から少女歌劇文藝部が翻譯した日本で最初  
の本格的喜歌劇です  
イタリー製の藁帽子を中心に、美男ポールを繞る朗らか  
な微笑の数々は緑りの初夏に相應しい一篇です。  
殊に吾等がターキーの眞價こそこの一篇に躍如！

# キリンビール



清涼飲料

キリンビール

證券金融

有價證券賣買



株式會社

日本信託銀行

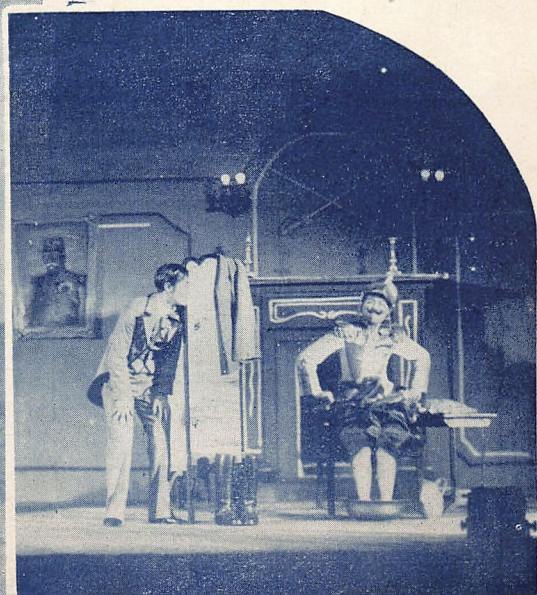
本店 大阪市東區今橋二丁目

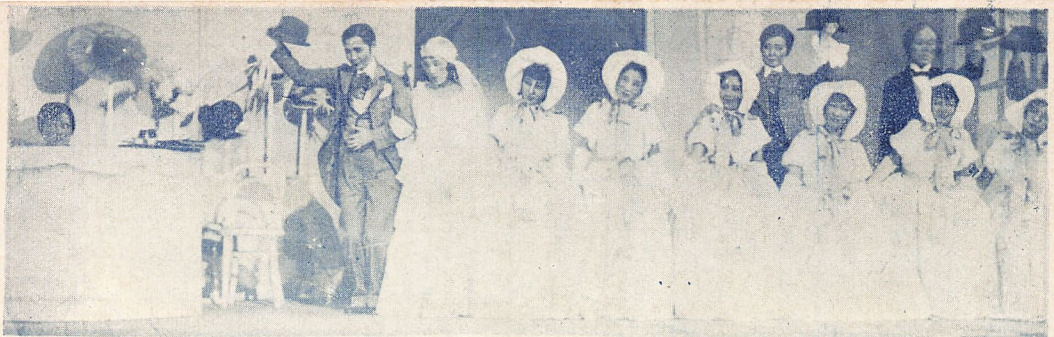
支店 東京市日本橋區南茅場町



劇歌女少竹松京東

「シャポー・ブランタン」の  
花舞臺に拍手をおくつて下  
さいまし……

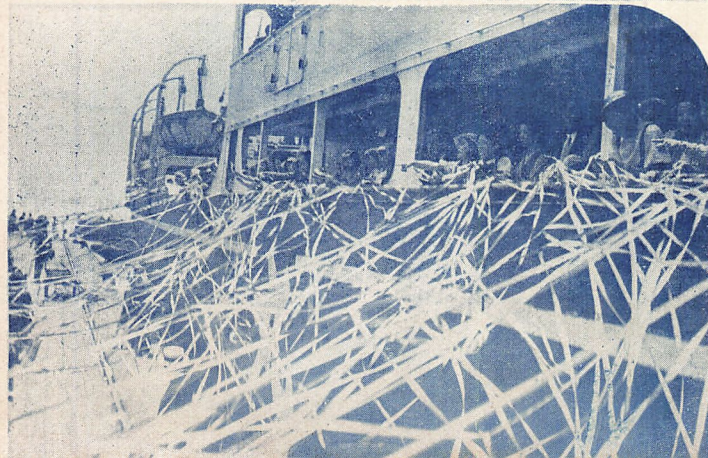




### 松竹ガクゲキ部

滿洲へ進出したガクゲキ部は、あちらで本格的レヴューを上場、非常な好評を浴びました。これは出發の際の記念寫眞―

(上) 歌舞伎座前



(下) 神戸出帆

新興の夏超の大作

内務省、警視廳、御後援

# 消防手

國策映画第二巨篇

雜誌「キック」所載  
原作 松田敏彦  
脚色 畑本秋一

島耕二

入社才目

森靜子

月田一郎

中堅かほる

主演

沖悦見

見明大郎

坂田輝二

湘辺桑子

江川木ほみ

田中筆子

新製現代劇部

秘勅員

監督 東坊城義長

撮影 中山良夫

近日封切

男の掟

高田稔

中座英治

高津度子

桂珠子

長門大名

岸鶯壽郎

市川正二郎

淡路千景

雲霧間広帳

阪東妻三郎

森靜子

流星

俺はいつ死ぬか知れずの消防手だ、  
一生をたゞ火と闘って暮せばいいんだ、吁！  
見よ熱血鉄腸志を捨て、怨ますて、正義  
と職務のみに一命を賭ける、若き二人の  
消防手！全篇、聖なる感激に満ち……

新興キネマ株式会社

坂東好太郎主演

松竹キネマ オールスターキー

めざと大学

録音	撮影	監督	脚色	原作
土橋武夫	片岡清	井上金太郎	藤井滋司	秋篠珊次郎

助演	堀江清子	花岡菊子	山路義人	廣田昂	坪井哲	小笠原章二郎	飯塚敏子
----	------	------	------	-----	-----	--------	------



誌雅・究新劇演・刊月

六月號

# 通類編

第九年

第三十九輯



物有在

望の懐

鷹之佐助の  
孫五郎

一九二〇

口田五郎



# 上演歌舞伎狂言解題

— 六月の歌舞伎座 —

世話垣鈍文

## ■鈴ヶ森

白井權八と幡隨院長兵衛とは從來から一般の人々には切つても切れない關係のある様に思はれて居りますが、實説では全く無關係で、幡隨院長兵衛は白井權八が世の中に登場する廿數年以前慶安三年に既に水野の屋敷で非業な横死をとげて居るので御座います。その全然没交渉の兩人が舞臺に同時に現れて、現代の人々にまで權八と長兵衛の印象を興へた源泉は、安永八年正月百五十六年前江戸の森田座で出演された初代河竹新七の作「江戸名所縁會我」の狂言とされて居ります。同じ年の七月、此の趣向は操淨瑠璃に仕組まれ、江戸豊竹肥前座で上演されました。此の狂言の題名は「驪山比翼塚」と云ふ源平藤橘、吉田辨二の合作で、此の四段目で初めて兩人が鈴ヶ森で出會つたので御座いました。其の後、鶴屋南北が此の出會ひを自分の「靈驗會我離」（龜山の仇討と長兵衛權八とを一丸として作つたもの）の第三幕目に取入れまして、文化六年四月市村座に上演致しました。鈴ヶ森の狂言は此處に至つて完成したので御座います。此の時の配役は、長兵衛が五世松本幸四郎、權八が五世岩井半四

郎で、その型がズット今日まで傳へられてゐるので御座います。最近では鈴ヶ森の場のみが獨立して上演される様になりました。

### ■繪本太功記

此の狂言は寛政九年から享和二年までの間に出版された「繪本太功記」を種本として、近松柳近松湖水軒、近松千葉軒が合作した淨瑠璃から取入れられた芝居です。此の淨瑠璃は六月一日から十三日に至る十三日間を十三段に分けました随分長い讀み物ですが、舞臺で上演されるのは殆ど十日の段の尼ヶ崎のみで御座います。最初操で上演されたのは寛政十一年七月に豊竹座で上演されたのが嚆矢で、芝居となつて上演されたのは寛政十二年十一月(百三十五年前)大阪角芝居中山徳二郎座で淺尾爲十郎の光秀で演じられたのが最初とされて居ります。江戸の舞臺にかゝつたのは、天保十二年八月の河原崎座で御座いました。因みに「馬廐の光秀」は此の「繪本太功記」から徳屋南北が脚色しましたもので、此等の狂言は今日では光秀物の雙壁として歌舞伎狂言の内に燦然と輝いてゐるので御座います。題名の「繪本太功記」の名は、十段目最後の文句「眞紫が武名假名書に、うつす繪本の太功記と末の世までも……」から出てゐることは皆櫛既に御承知のことと存じます。

### ■暫(歌舞伎十八番之内)

「暫」とか「助六」とか云つた芝居を見ますと、歌舞伎傳統の根強さを今更の様に、沁々と感じるので御座います。此の狂言の起りは元祿十年正月(二百三十八年前)江戸中村座で初代市川團十郎が「參會名護屋」の第二番目の北野天満宮社頭之場で、山中平九郎の扮した太宰之齋が、雷丸の名剣を奉納するため大福帳の繪馬を下さうとするとき、團十郎の扮した不破伴左衛門が暫くと聲を懸けた

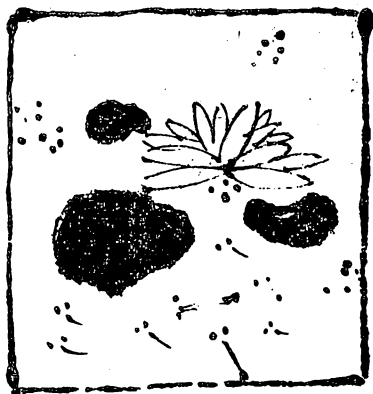


のが非常に舞臺効果を現したことが、遂に現在まで傳つた主因をなしたものと云はれて居ります。しかし此の狂言は今日の「暫」の主因をなしたもので、基準となしたものではありません。基準になつたものは、正徳四年十一月(二百二十一年前)江戸中村座の顔見を狂言「萬民大福帳」で二代目の市川團十郎の鎌倉五郎景政が、山中平九郎の阿部宗任を相手として、宗任が大福帳に手を懸け様としたクライマックスに「しばらく、しばらく」と揚幕から聲をかけて現れる狂言が、基準になつたのであります。此の狂言には一定の脚本がありませんので、役名も演出法も、眞に融通自在で非常に複雑を極め、歌舞伎十八番の内では最も變遷進化の徑路を辿つて來たもので御座います。衣装も最初の「參會名護屋」の時は、總身を赤く塗り長袴をくくり、龍神卷の素袍に赦免狀を持つたと云ふいでたちでしたが、元文元年十一月河原崎座の「順風太平記」の時から、後世の型とされてゐる角前髪に紅隈をとり、素袍に大太刀を佩き、中啓を持つてゐる扮装となつたので御座います。そして今日行はれてゐる「暫」は凡て九代目團十郎の臺本を粉本として演出してゐるのです。又、有名なツラネは初演以來上演各に新作するのを慣例と致して居ります。最も代表的な荒事の精髓として、また、最も歌舞伎的な色彩の排列と、音楽の様式化との藝術美を此の狂言で満喫して頂きたいと思ひます。

### ■石 切 碓 原

これは「繪本太巧記」と同じく操淨瑠璃から取入れられた狂言で、享保十五年春(二〇〇五年前)大阪竹本座で上演された「三消大助紅梅豹」三段目の口にあつて居ります。作者は長谷川十四、文耕堂で御座いました。これは歌舞伎として演じたのは、安永四年九月(百六十年前)京都早雲座で初代嵐雛助が演じたものを嚆矢として居ります。原作では星合寺の小松原となつて居りますが、今日の様には、宮造りの舞臺に改められたのは、三代目の歌右衛門からで御座いました。

△右日本百科辭典、日本文學辭典、歌舞伎細見に據る。



◆◆◆ 原 梶 の 近 最

男 正 田 菱 ◆◆◆

六月の關西劇壇を飾る大阪歌舞伎座の九世松本高麗藏襲名披露の「東西合同大歌舞伎」で鷹治郎が書に「望みの港」を、夜の部に「石切梶原」を出すといふ。

元來この「梶原平三試名剣」星合寺の場は「三浦大助紅梅約」の三段目の切りで、作者は文耕堂（松田和吉）で（文耕堂と長谷川千四との合作ともいふ）書卸しは享保十五年八月で、原作は頼朝が石橋の戦ひ、真鶴ヶ岬に陣所を構へて再擧の軍議をするところから筆を起し、前後五段にわたつた長篇で「石切の場」はその第三段の後段である。本文は星合寺であるが、時折鎌倉八幡宮の場に變更したのもある。

鷹治郎が「石切梶原」をやつたのは最近では昭和六年の京都兩座の吉例顔見世興行の書部の第四に出した時だらう。あの時は鷹の梶原につき合ふに左團次が大庭三郎景親、今はじき勘彌

が俣野五郎星久、幸四郎が六郎太夫、高砂家福助が娘梢だつた。その時の思ひ出を少し書いて見やう。



昭和六年の顔見世興行といへば、大阪から、鷹治郎、福助、魁車、壽三郎市藏、東京から左團次、幸四郎、吉右衛門、故勘彌、時藏、松蔦、源之助、しうかといふ大顔合せで、書に「都路豊後縁」「良寛と子守」「佐々木高綱」「勸進帳」とこの「石切梶原」夜の部に「菅原の寺小屋」「鳴神」「腕久末松山」「積戀雪」「關扉」が出て、好劇家を唸らせたものだつた。

その時の「石切梶原」は前記の顔合せが非常な人氣を喚んだもので、しかもこれが勘彌の京都での最後の舞臺となつたのだから思ひ出は一層ふかい。その時の自分の印象にのこつた「石切梶原」は、第一に道具立のよかつたこと

だ。元來詮索好きの成駒家のこととして、これまでよく見た土塀外を止めて、正面に遠矢的の登り口を掛けて廣い弓場を見せ、たしか參道の登り口を上手にして、その際に手洗鉢をおいた舞臺装置だったと思ふが、これが實際の星合寺だといふ話だった。その眞否はさておき、これはたしかに舞臺が大きく見えてよかつた。けれども、その時の鴈の梶原は何よりも老衰のめだつてゐたのに驚ろかされ、同時に「鴈の梶原も、もうこれ限りで見られぬか」とさうした感じに襲はれ、特に氣をつけて見た位だった。もとより押し出しのよさは何といつても千兩役者に違ひなかつたが、年のせいの争はれぬところ、鴈も老ひたり……としみ／＼哀愁を覺へた。

しかし、六郎太夫が楯に偽の使ひをかけるべく話の最中に一首を認める手順もよく、眼目の石切の型は播磨家のそれとは反對に向ふへ廻つて正面を見

せ、大きく派手に極まつたと記憶してゐる。

播磨家で思ひ出したが、私が吉右衛門の梶原を見たのは、昭和三年五月、同じく南座で、吉右衛門、三津五郎、時藏らの一座の時で、その時は「梶原平三譽石切」といつた。配役は吉の梶原に、九藏の太夫、吉の亟の侯野、紅若の六郎太夫、時藏の楯だった。大體、鴈の梶原自體が寫實乃至理窟つほいだけに、吉右衛門などにやらせると物語の件など、随分派手にやるのは型本位で見せやうとするからだらう。そして鴈のは參詣の戻り道の心持で出てくるし、吉のはこれから參詣することにして花道から来るなども比べて面白いと思つた。

それと吉右衛門で頭にコビリついてゐるのは、梶原が刀の鑑定後、二つ胴を試さうとする大庭を制する臺詞を

(八百へ續く)

ルービヒサア  
ルービンオニユ  
社合式株酒麥本日大 通内街内百

# 望の港雑話

— 馬治郎のけり役 —

大橋孝一



科學萬能の今日、此處に科學では清算し得ない處の奇蹟がある。私達が舞臺で見る馬治郎の若さ、水水しさがそうだ。試みに、よく新聞などに見る彼の素顔と、紙治のメイクアップした彼の顔とを、照し合せて見給へ。これが今日の奇蹟と云つて悪いだらうか、世間並の七十四の老人と云へば、腰は海老然として、齒は抜け落ち、頬はこけ、どうにも始末におへない弱り方で風呂屋送行くことが既に一つの大きな仕事である。だのに、馬治郎の若人を凌ぐあの潑刺さはどうだ。全く若い者がお恥かしくなる位である。

又此處に友右衛門と云ふ役者がある此の人は肉付きも良く、頑丈な體驅をしてゐるにも拘らず、まだ五十にも足りない若さで老け役ばかりをやつてゐる。此の御兩人の比較は面白い。馬治郎は勿論自分の持つてゐる他人の追従を許さない此の奇蹟を隨一の武器として舞臺に望んでゐるし、又、その若さ故に舞臺に限りなき精彩を興へてゐるのである。だから彼が、あの齡になつても老け役を演じたことは、殆ど無いと云つてもよい位なものだ。その意味から見ても「望の港」は非常に馬治郎のものとしては珍らしいものと云つてよい。彼の零落した老ひさらばえた姿が舞臺に見られるからである。

所謂紙治式の美しい三十男が、次の幕で一變してルンペン姿に變り果て、前の幕での三十男の美しさを餘計に印象強く観客に訴へる作者の意圖が、巧みな演技で充分に活かされ、効果附けられて行くのである。だから零落した彼の姿が惨めであればある程、前の幕での美しさが印象強い譯である。と云つて、餘りに度を過せば不快にならう。此の點、彼の扮装は實に心得たもので、また時代(明治初年)と云ふこと

も充分考慮されてゐるのである。例へば、あのうす穢の羅紗の頭巾、骨の折れた蝠蝠傘、これで私達は充分にその時代を知ることが出来る巧みな扮装だ。そして、最後に花道に入る「引込み」の眞に迫つた鮮かき。誰しも涙を拭はずには居れない處であらう。

此の狂言は大正十五年十月中座の梅玉七回忌興行に「室津の歌」として大森痴雪氏の書き下されたもので、その後、上演各に改訂され、題名も「一里塚『望の港』と數度の改題をみて、完璧になつた氏の代表作と云つてよい。此の狂言のいゝ所は、嘘の書いてないところである。此處に起る物語は、現在殆ど日常茶飯事に繰返されて居る物語で、誰しもあの年頃に抱く限りなき大望に對してのひた向きな心の動搖を遺憾なく描いてゐる。殊に趣味と合致しない家業を受け繼いで行かなければならないニガニガしさ。

人間至る所にセイ山ありと云ふ。然

し生涯忘れることの出来ないものは矢張り故郷である。而も身が逆境にあればある程、戀ひ慕はれるものが故郷である。旅人のこのやるせなきセンチメント。みんな嘘のない世界である。そこで此芝居のいゝ所は此處である。

(六頁より續く)

「アイヤ、待たれよ大庭殿、鑑定いたした梶原に、何一言の禮もなく、二つ胴を試さんなどは近頃もつて無禮千萬」とやつたが、この「無禮千萬」の切れが、例の得意の震へを帯びた所謂名調子でやり、大向ふから「大播磨！」の喧ましい聲のかかつたことだ。あゝしたところは鷹の臺詞と違つて吉右衛門の得なところだらう。

鷹治郎は今度どんな舞臺装置で、どんな型でやるかは判らぬが、おそらへ前の時と變らぬだらうと思ふ。配役も大庭を延若、侯野を壽三郎がつき合ふだけで、幸四郎の六郎大夫、福助の梢は前の通りだから、まづ純大阪の顔觸れ

といつてよいだけ、變つた味もあらうこの前もさう思つたが、福助の梢は背見た頃から、もう薙が立つてゐるし初々しさには缺けるが、手慣れてゐる點で、やはりこの人の他に求められぬかも知れぬ。幸四郎の六郎大夫は臺詞覺へのわりの名人が割合キチン／＼と覺へてゐたのに愉快だつたから、その心配は今度もあるまい。とにかく鷹治郎の演し物の中の顔合せものとしては「大曇寺堤」などの陰鬱なものと違つて相當派手なものだからいゝ。

「刀も刀」「斬手も斬手」の臺詞に大向ふから「役者も役者ツ」と聲のかかつたなどは随分有名すぎる話だが、それだけ見物にも親しまれてゐるから得だ。その當時氣にしてゐた鷹の健康もと戻したし、本年春からズツと殆んど働き通してゐても一向弱つてゐるさうもないから、この際その元氣な調子で昔どほりの大舞臺の梶原を見せてくれるだらうと非常な期待をもつてゐる。

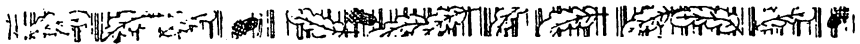




首夏觀劇

入江來布

春も惜し芝居も惜しや果ての夜  
 芝居果て卯月の風に面テかな  
 餘花の思ひ芝居棧敷の裕かな  
 女形の今は誰れそも裕着て  
 吊枝の餘花はなやかに扇かな  
 薄暑さへ嬉し見手衆が扇かな  
 卯の花の爽やかにかも棧敷衆  
 團七か噂さも餘花のほのかにて  
 浪花座の浪のしるしも卯月かな  
 芝居茶屋夏めく水に掛けつくり



芝居物語

村井富男原作・鳥江鉄也改訂

近松とおさん

垣久桂子



小春治兵衛の心中は、名作者近松門左衛門が「野郎帽子は紫の……」と鮮かな手際を示したばかりでなく、この淨瑠璃によつて噂は噂を生んで行つた寺島の素封家尼ヶ崎屋吉左衛門の許に寄寓してゐる近松の許へ、今日しもおさんが訪れて来た……。

近松の麗筆になつたおさんは美しく貞節な、神か佛の様な心の女であつた——だが、當のおさんは、石町の島屋に愛しいお末と勘太郎を預け、治兵衛が心中してから後、同じ紙屋仲間の太治兵衛へ再縁したのである。

「あの淨瑠璃は嘘ばかり、その嘘のために私はえらい迷惑——」

「これは手きびしい、いや別に悪氣があつてほんまの名を人形につけたのやないが、治兵衛の女房はおさんちや

と聞いて、わしの考へてゐる女房氣質を書くに持つて來いのよい名前とつけた迄や、それが迷惑とは、一體どの様な迷惑をしてござるのぢやな」

「あの淨るりが廣まるにつれて丸で見世物か何ぞの様にあれがおさんや、あれがおさんやと見物の市です」

「こりア困つたわしはたゞ戯作者ぢや」

「治兵衛にあんな目に會され、この上淨るりのおかげでまた悪う云はれる私の恥どう始末しとくなはるつもりです」

見かねた、亭主太治兵衛は

「これ、おさんもつと靜かに云ふたらどうぢや、近松様、えらいすみません」

太治兵衛がなだめるのもきかず、勝氣なおさんは近松に詰り世間が五月蠅

い故へ大阪の土地を離れると云ふ。

近松は、この意外な——現實に生きるおさんに驚き、自分の書いた淨瑠璃のおさんは、人間でなく、單なる人形だつたかと呟き、數奇を凝らした庭傳に歸つてゆく、おさん太治兵衛をぢつと見送る……。

2

その夕方、東横堀の長屋に歸つたおさんは、世間の迫害から何處までも逃れるべく、大阪を去ることを決心して道具屋を呼んで、値をつけさせてゐる。

こんな騒ぎのなかへ、新町の揚屋のお清が、酔興な客が、眞女なおさんの顔を見たがつてゐると云つて來るが、見ると聞くとは大違ひと戻つて行く。

やがて、歸つて來た太治兵衛とおさんは、夕膳につき、盃の數が重な

つて、痴話喧嘩を始めた。

「おさん、お前はやつぱり治兵衛を思ふてる、こどもで生んだ何や」

「治兵衛なんか思ひ出してもゾツとする」

「ゾツとする程好きなんやらう、馬鹿にするな」

と、酒の酔も手傳つて盆を投げる。

「あんたなにしなはんね」

「何が何や、この嘘つき、今日までこの太治兵衛を阿呆にして呉れたな、男一代を棒に振つて、お前みたいな女

と一緒になつたのが、身の不覺や、今日近松様の所で聞いた女らしい女、優しい心がお前のどこにある。今夜限り別れるさかい出て行け」

「太治兵衛さん、あんたそれで正氣か」

「正氣や」

「口惜しい」

太治兵衛に見れば、おさんが、  
自分に嫁いで来たのは、治兵衛や、近  
松や——そうして世間に對する面當て  
としか思へない。

揚句の果は、驚くおさんを殘し、竹  
本座人形のおさんを見に行く、出て  
行く。表では隣のおみねと、貞女おさ  
んとばかり再縁をすゝめに來た千田屋  
が飽氣にとられて、この騒ぎを見てゐ  
る……。

何時の間にかとつぷり暮れて、何處  
からか、題目太鼓が聞える。

3

同じ夜である。

川を隔て、道頓堀の櫓が見える。

あやつり橋(戎橋)の側である。

茶屋からは浮いた騒ぎの囃子が流れ  
枇杷葉湯賣、歌舞伎若衆、遊女などが

通り過ぎる。

程なく、吉左衛門と近松が仲居藝子  
に送られて来る。

「どうやらこれは一降り來さうなぜ」

「さうやなア、わしは降り出さん内  
に歸るとしよう」

「まあ、えゝやないか、もう一ト所

だけ附合ふとくれ、さつき聞いた「女  
殺油地獄」のつゞきの筋を聞かして  
貰ひたい」

「今夜はお吉殺しの場を書かうと思  
ふてゐる、もうこゝで堪忍して下れ」

「そんなら茲で別れるとしよう」

と、吉左衛門は女共を連れてゆく。

と、入れ違ひに太治兵衛が通りかゝ

つて、近松に逢ふ。

「オツ、近松様」

「これは、お晝見えたおさんさん  
の御亭主か」

「私はんたにお目にかゝつてから  
ほんまの女らしい女がいとしようなりま  
した」

「これは悪いことをいふてのけた」

と話してゐる折柄、後を追ふて來た  
おさんと、茲に晝間の様に三人が顔を  
合せる。

「太治兵衛さん、別れる氣ならこゝ  
から西と東に別れまひよう」と飽迄も  
勝氣なおさんは云ひ切る。

と、突然妖しい空に雷の音がして  
雨が降り出した。傘をひろげた門左衛  
門、

「夕立ちや、傘に入りなされ、——  
二人共考へ直して、もう一遍、この手  
をかう……」

と二人に手を握らせる。

雨はますます激しくなつてゆく……

(幕)

(煉固) ムーニタチ

# 粉白園御

明  
る  
い  
化  
粧  
美  
妙  
お  
望  
み  
な  
ら



肌色・白色  
各金五十九

R

# 五月

# 各座

の

# 印象

## 南座 西尾福三郎

先代延若の追善興行を持つてきたのは有意義であるが、間際になつて出演俳優の顔ぶれが變更された爲、折角の追善芝居が名目許りになつた感がないでもない。河内家の希望では五十年前に先代が演つた物を自分が演じてこそ、見物に對しても俳優自身に於ても、追善の實を示す事になるのだと云つてゐた。折角の延左の顔合せにしかも妻八の如き絶好の演し物があり乍ら俳優の顔ぶれと時間の都合とで新作に據らざるを得なかつたのは残念である。

前後七つの演目の内女が出るのは三つ、後の四つは殆んど男許り、而も將軍江戸を去ると大晏寺と妻八の大詰と暗い場面が

多く、さう云へば修禪寺だつて餘り明るい芝居ではなく、おまけに大晏寺の唯一の點彩たる子役が省かれてゐたり、總體に堅苦しく暗すぎた。

印象に残つたのは將軍江戸を去ると大晏寺である。前者は動きの妙な理屈の多い芝居で、一般によく分つたる何うか疑問であるが、左猿が四つに組んだ大相撲を見るやうな感がした。何方かと云へば猿之助に分のいゝ角力、いや芝居だつた。

大晏寺は近頃での好配役で、加ふるに舞臺のこしらへ、演技の末に到る迄、例によつて成駒家の飽くなき工夫研鑽の跡が見られる。おつとりした左團次の高市に對し、延若の加村が悪く芝居をしないのもよく、その他では荒次郎の寒念佛もあれでいゝが左升なら亦別の味があつた

## 浪花座

歌舞伎座は競争圏外の今月、軒を並べた中座と浪花座が又々新國劇と前進座で猛烈なせり合ひとなつた。五分五分に入りがらう。

段七しぐれでは、翫右衛門の春吉がよい芝居をしてゐた、一寸新派の梅島を思はせる淡白な所があつた、がお染七役の久作は若作りにすぎたと云ふ世評だが、こゝの久作は久松の親ではなく、兄であるからその心で白くぬつてゐたのだらう。

長十郎の押しと翫右衛門の才恰も新國劇の辰巳と島田のやうな立場だが、これをうまく統制して行く俵藤氏のやうな人が前進座に居てくれるとよいのだがお染七役は結極國太郎だけの

# 五月

# 各座

# の

# 印象

芝居で、總ての他の役はこれを引立てる爲に案配されたッけである。

早變りの面白さ、嫁菜、山吹櫻と季題味の豊かさ。操り作者より歌舞伎作者へ近かつた半二の歌祭文を、更らにすつかり歌舞伎化した南北、併も小梅裏店で自己の持味を十二分に發揮して遺憾がない。若い國太郎に完璧な七役を求めるのは無理であるが、目まぐるしい變り目々をあれだけに演れたら成功である。所々懐月堂描く女と云つたやうな持味があつた。長十郎の喜兵衛もかうした役になると重味も凄味もきいてくる。然しこの人だけが時々厭にテムボの鈍い芝居をするのは考へ物だ。四五の幹部級を除いて、他の座員が目立つて平板すぎる。熱も結構であるが。情熱だけで芝居は

できるものではないのだから、若さを幸ひもつと、藝を鍛練して貰ひたい。

## 中座

四月末に蓋を開けた前進座に比してやゝ立遅れの氣味があつたが、結極二十七日迄日延べした上マチネーまでやつて、今日は斷然新國劇が天下を取つた形だ。中井逝き山路の名が消へても微動だにしない所水も漏さぬ鐵桶の陣構えである。

丹下左膳は四幕十何場を使つて而も何事も解決されてゐないのが弱點である。

臉の母は專賣特許とあつて、恐らく澤田のそれ以上に作者のお氣に召したかも知れない。今更ら問題にするのは證文の出し遅れであるが、忠太郎の氣持に同感はされても母親の氣持に疑

間のある私は、しかし、あゝせなければ芝居らしくならないと云ふ事を考慮の内に入れて折角の當り藝だから素直に褒めておかう。

中井櫻州はよい芝居だとは申し兼ねるが面白い芝居ではある一貫した高揚性はないが、各幕にそれぞれ見せ場があつて、最後の二人が裸踊りする所では満腹の糞塊を吐露させられて愉快だ。人を喰つた辰巳の行き方も喜劇俳優としての技倆を認めさせる。畑中のパークスも本場仕込みの確かな物で、草人と共に性格俳優の持味を示してゐた然し京言葉の驅使に到つては皆々困つてゐるらしく、速がに初瀬だけが危氣なかつた。久松は別として永島二葉の二女優が島田辰己並にカッコリと藝の分野を二つに別けてそれれ、精進し

# 五月

# 各座

# の

# 印象

てゐるのは賢明である。俳優は何れも手揃ひ、加ふるに澤田在世時代は可なり不注意だった演出や装置にも、近來新進を専用して萬全を期してゐる、將に新國劇黄金時代である。新國劇と前進座とに鼎立する角座の關西新派を見る期會を逸したのは残念だつた。

## 文樂座

二十四孝と野崎村と云ふ半二の名作二種、然も一は方珍らしい通し狂言である。

竹の子場が少々退屈でもこれは必ずしも古靱太夫の責任ではない。下駄場の退屈を受けて、花やかな見せ場は十種香に取られ、然も二十四孝の眼目である竹の子場を古靱は懸命に語つてゐたので。好感を感じさゝれる十種香は小春の姫、つばめの

勝頼、相生の濡衣、人形では紋十郎の姫に、珍らしく文五郎が左りをスけてゐた。紋十郎の姫がケレンを避けた使ひ振りが眼に残ると共に、小春の姫の語り口がやゝ足の長かつた事、それに、狐火が従前の燒酎火の代りに書割の中へイルミネーションのやうにして點滅させてゐたのが一寸氣になつた。

人形芝居と云ふべき半二の二

作の間へ本格の人形淨瑠璃とも云ふべき吃又を据えた事はよい思ひつきだ。見る物ときく物の區別がハツキリと分る。とても事に冠子改訂本に據らず近松の原作でみたかつた。津太夫の吃又は皮肉なき、物だつた。野崎を語つた土佐太夫の、就中盲目の婆さんはすてきによかつた。

*PEACE Syrup*

---

34年 サンマー スタ  
シロップ 界の権威

**ピースコーロシロップ**

**ピースフルーツシロップ**

✓ *Kyoto Manju Co.*







場と改稱して、松竹作品全プロを以て、淺草、新宿と呼應して封切することになった。日本物に憧れてみた丸ノ内フアンの渴を癒したわけである。――

### 松竹藝術集團の新宿

#### 松竹座公演

松竹藝術集團その第二回公演は6月1日より既成メンバーに、新築地劇團を加へ、奥山さんの指揮コンセルオーケストラ廿餘名の結成のもとにその蓋をあけた。

ナンセンスレヂュウ「微風の唄」6景。

ルナル作メロドラマ「にんじん」10景。この演出は村山知義氏  
グランドオペラカルメン四幕。

ヴァラエテイ「パツシング・シヨウ」15景で藝術的香ひ高いプログラムを以て公演してゐる。尙、ジャズ・ダンサーベツター稲田嬢も特別出演。

### 東京松竹少女歌劇の凱旋興行

5月は大坂舞伎座、6月は京都南座に遠征の松竹少女歌劇は、6

## ヨク話愚談痴譚

### 花月亭九里丸

歌舞伎座に久方振り芝居が観られる  
芦邊節の次ぎが東京松竹少女歌劇と、女  
護之島の居つゞけから、やつと脱出して  
の大歌舞伎とは嬉しいですね。成駒家が  
元氣矍鑠として、晝に「望の港」と夜に  
「石切梶原」あの年で、壯者を凌ぐ水々  
しい舞台は兎に角偉いよ。

A 「大阪の寶だね成駒家の藝は、阪田  
藤十郎以後の上方役者として永久に記録  
する名人だね」。

B 「本當だ、正に當代の出来ものだ  
よ」。

A 「出来ものだから石切を演るのだ」。

僕は家庭劇が大好きだ、その出演俳優  
の諸氏にお馴染が多いと云ふのも一つの  
理屈だが、兎に角も文句抜きに全體が好  
きだ。

中座の看板前に佇つた、二個のおサラ  
さん

甲 「又觀に來うぜ家庭劇だ、われ等の  
家庭劇だ、俳優が揃つてるね」。

乙 「然しこれにでも座長とか云ふのあ  
るのだらう」。

甲 「サア、あれば誰だらう」。

乙 「十吾だらうね、東郷元帥と云ふ位  
だから」。

甲 「東郷元帥は宜かつたね」。

月6日より東京劇場に於て凱旋特別興行を行ふ豫定で、大レヅユ一本に、添物二篇は、關西土産とし、秘中の秘の實をあげるべく、京都南座で目下會議中。

### 滿洲進出の大坂松竹樂劇部

松竹樂劇部一行百名は5月22日神戸出帆レヅユ船で滿洲へ進出した、

大レヅユ「春のおどり」「京鹿子娘道成寺」ナンセンス・ショウ「女性王國」を大連、協利會館で滿洲最初の本格的レヅユをあらわす人に見せた。

### 明治座にライオン、白熊が登場

明治座6月新派、女優、歌舞伎中堅若牛の精銳總出演興行にはジャーナリズムの波に乗つたエチオピア帝國に取材した巖谷氏作の「エチオピア風景」を上演。その人情、風俗、習慣などを笑ひのなかに紹介してゐるが、金銭貸借に於ける珍習にライオン、白熊が登場してゐる——本物が、こしらへるのか、見て居ないので保證の限り

乙「では、小織君ほどの位置だか知つてるかい。」

甲「家庭劇主義に共鳴して、これの應援と云ふ意味から一方の劇壇から轉向して来たものだね。」

乙「オイ、それぢや殆で××黨のやうぢやないか。」

甲「だからシンパ出と人が知つて居るぜ。」

乙「あゝさうか。」

かなへ會の人々に據つて上演された「涙の四ツ辻」次ぎが「續涙の四ツ辻」、今度が「近松とおさん」……未だ見ぬが「近松とおさん」とは題名だけでども大阪土着の人間としては涙の出る程に嬉し

を觀れば又どんな特異の印象が與へられるものぢややら……。

一の女「屈從その物を女の誇らししいものと頭押へにした、古い女の貞操觀を皮肉に諷刺したのが今度の歌舞伎座の「近松とおさん」だすとな。」

二の女「變つた狂言も出來たもんだすな、この調子なら今に「竹田出雲と松王」やの「眞山青果と乃木大將」テな脚本も出來ますやらうな。」

一の女「もう時代は、餘りにも現代世想とピツタリと合はぬ芝居には飽いたのだすやらう、落語が恰度えゝ例だすぜ。」

二の女「然し、新脚本くくと云ふたかて中々難しいものでせうな。」

一の女「いゝえ、今度の新作物なんぞは「さんするより産むが易い」だす。」

## 石切の型の相違

森みよし

でありませんがね。

### 教へ子のために菊五郎出演

東京東京劇場6月興行は、日本俳優学校劇團の第一回公演で、團長たる菊五郎が一門を卒ひて、指導特別出演「鏡獅子」、長谷川氏作「闇の丑松」で完璧の舞臺を見せ團員出演の「靈驗」「紐」は菊五郎が演出を擔當してゐる。尙、土曜、日曜マチネーを行つてゐる。

### 新派軍6月は九州、四國 中國行

河合、喜多村、花柳、小堀、梅島、英、大矢、伊志井、その他のメンバーにて、九州、四國、中國より、東海道巡業、「續二筋道」「三つの旅」「前科者二人女」「婦系圖」の名作揃ひで、振り出しは一日より四日間博多の大博劇場、熊本旭座、小倉勝山劇場、別府松濤館、周防徳山歌舞伎座、廣島濤座、福山大黒座、その後は東海道を巡演する豫定である。

### 野淵、三木、月形のトリオ

約半歳に亘つて、トッキー製作の

僕は、相當數多く、成駒家も播磨屋もその舞臺を観てゐるつもりであるが、どうした廻り合せか、不思議と石切梶原だけは縁が薄い。わずかに一度づゝ見ただけである。だから今度鴈治郎氏が、大阪歌舞伎座六月興行にその星合寺を演ずるに際して、吉右衛門氏の梶原との比較論を試みる資格は備はつてゐない。随つてこの一文は、たつた一度づゝの舞臺から受けた、相當古い感銘の印象記に過ぎない。この點、あらかじめ「道頓堀」編輯長の御諒恕を乞ふ次第である。

○ 僕の記憶にして誤りがなければ、眼目の石切、鴈治郎氏は寫實をねらつて刀を初めから手洗鉢の石にあてがつてエイツと一氣に切り下げた筈であり、吉右衛門氏はどこまでも形本位に、大上段に振かぶつて切りおろしたと思ふ。ここには古名優の残したこの場の型の詮索は避ける

が、そして、あの大きな手洗鉢は、實際の問題として、名劍の威徳を以てしてもまた、いかに劍道の達人でも、あんなに手輕に眞つ二つとはゆくまいが、そこは歌舞伎の誇張的な定法として可能性に尺度を置き、その觀點から鴈治郎氏の梶原をみれば、あの形はまことに合理的である。技よりも刀で切る——それでなければ切れるものではないといふ解釋からすれば、吉右衛門氏の大上段は、この場合の形として不合理である。併し、始めから石切の可能を否定して、つまり寫實を無視して、所謂金ピカ劇の持つ歌舞伎の形式美の點からだけ云へば、切れる、切れぬを別として、吉右衛門氏の大上段はまことに立派である。

○ 鴈治郎氏は、今度も、おそろくあの型を變へまいと思ふが、關西の見物はどちらを好むか、それから、この比較上の興

準備を進めてゐた新興キネマは、定評ある土橋式を使用、ステージは元入江プロ双ヶ丘スタヂオを改造し、大佛氏書卸しの幕末物を、野淵氏に監督をわづらはし、月形龍之助主演、三木茂のキャメラで撮影開始、尙新興では土橋システムその他にJOとも交渉契約したと。

味で考慮に入れなければならぬのは、鴈吉兩氏の柄の相違である。何といつても、鴈治郎氏は、あの立派なそつぽう、押出しである。始めから手洗鉢に刀をあてがつて切下げても、その形は少しも貧弱ではない。柄の小さい吉右衛門氏は、解釋の上では鴈治郎氏と共通な同感があつて、而も意識的に大上段の型で、柄の

小さくを大きく、立派に見せてゐるのかも知れない。鴈治郎氏は、見た眼からして、風流な武人らしく、吉右衛門氏は、無骨な東國武士が柄になく風流に親しまうとしてゐるかのやうに見えるのも、柄からくる相違の面白さだと思ふ。とまれ梶原にしる盛綱にしる、鴈吉兩氏とも、劇界すでに定評ある至藝、その鴈治郎氏が、一段の新工夫が加へられる事と思ふ

洋酒界の革命兒國産洋酒の逸品

國産金鶴印

ウキスデキ  
ベラモンツ  
キユラモツ  
ベユルミ  
キバール  
ジベキ  
滋養葡萄酒



元 發 賣

株式會社 横山商店

大阪市東區豊後町三番地

電話東(94) 一六六一 二〇一三 四六四九

# クラブズ白粉

あたしの歡よろこび……

あたし……  
クラブ白粉せきこ  
つけてるの！  
クラブ頬紅ほお  
つけてるの！  
クラブのルージュ  
つけてるの！  
さんごのやうな頬ほ  
いちごのやうな唇くちびる  
あたし……  
クラブが大好きだいじよ！



代時色肌

道頓堀特輯讀物

2225頁の瀬戸君

篠山吟葉

怪談でも何でもありません、ほんの些細な偶然ですけれど、瀬戸君の亡くなった日に、こんな事がありました。  
前夜、二三の人達と南地の濱作に寄つて、家に歸つたのは九時過でもありましたらう、私は寢床にはいると何かしら讀みながら、それを添乳に睡るのが癖なものですから、いつも枕もとには二三冊の雑誌が何かを置いてあります。で、その晩も手さぐりに一冊引よせてみると、それはサンデー毎日の増刊號で、行友さんの「時鳥雨の破籠」といふのが巻頭に載つてゐました。先づそれを一氣に讀んでしまつて、毎もながらの才筆に感心してあとは挿書や本文の拾ひ讀みをしてゆく中に、「大衆作家を訪ねて」といふのがありました。十人あまりの作家訪問記なのです。その中で私の識つてゐる人は行友さんと瀬戸君とでした、で、早速行友さんの「北海熊の思出話」を拜見して、次に瀬戸君の頁をあけてみました。





行友さんにも永いことお目にかゝりませんが、瀬戸君とも久しく會つてゐません。

寫眞でみると、卓上電話か何かを備へた書齋に納まつて、カードの占ひでもしてゐるらしい瀬戸君の姿。そして相も變らず警句澤山の話つぶりが筆記されてあります。

兩君の寫眞をみて、訪問記を讀んでみると、私は十餘年の昔が思ひ出されました。

私が大阪に來たのは大正八年の秋でありました。その頃の松竹合名社は、笠屋町の社長邸と廊下づたひの古い二階建を事務所にして居りまして、階下が營業部、二階が小道具部屋と宣傳部になつてゐました。私はその六疊敷ばかりの宣傳部で、久し振りに瀬戸君に會つたのです。

瀬戸君のお父さんの半眠翁とも昔からの知合でありますし、瀬戸君とは東京にゐた頃、毎日のやうに芝居の招待棧敷で顔を台はしてゐた仲だつたのです。それが二三年目にヒヨツコリ落合つたのですから、やアとばかりにその奇遇を驚くと共に、忽ち無二の親友になつてしまひました。申迄もなくわれ／＼の親友交際は酒に據つて終始されます。二人は早速飲みに出かけました。

兩名共に東京から落ちて來た境遇です。もちろん貧乏です。贅澤な眞似は出来ません。橋詰の關東煮屋、芝居裏の腰掛料理、先づその邊が身分相當なのです。それでも毎晩のやうに飲んで歩きました。

と、こゝに又一人の悪友が現はれました。千葉君です。S Yの總元締千葉吉藏氏も、その頃は笠屋町の梁山泊で徒らに天下の形勢を觀望しながら、懷中の寂しさを愚痴つてゐた仲間の一人なのです。これも同じく東京落だつたものから、話も會ひ氣も會ふ道理です。さアそれから三人が常蛇御翼の陣を張つて、縦横無盡に其邊を飲荒したものです。——失禮、調子に乗つて少々仰山過ぎました。前申した如く三人共に貧乏だつたのです。いくら屋臺店だつてそんなに景氣よく飲続けられませんか。

瀬戸君はその頃、戎橋の北詰を西に行つた風呂屋の二階に次弟の日出夫君と一緒に下宿してゐました。うす暗い座敷で、それに階下が錢湯の焚口か何かで、いやに生温かく、ムツと臭いやうな氣がするのです。だが贅澤は云へません。酒錢窮乏を告げると、三人そこにとぐるを卷いて、ある時は日出夫君も交つて、蕎麥屋の種物か何

かで飲みはじめるのです。

千葉君も私も酒の事で他をかれこれいふ資格はありませんけれど、瀬戸君と来たら全く酒を生命のやうにしてゐた人です。お父さんの半眠翁といひ、弟の日出夫君といひ、よくもあんなに酒好きが揃つたものだと思ひます。それでゐて瀬戸君は泣上戸でした。

その、風呂屋の二階の佗しい座敷で飲んでゐる時など、酔が廻るにつれてこの若い天才作家はいよく感傷的になるのです。

「僕はモウ駄目だ。見てくれ、こんな體になつちやつた。僕はモウ駄目なんだ。」

と、衿を押ひろげる、色白でキメのこまかい、女のやうな肌をした瀬戸君の胸から腕へかけて、物凄いやうな赤痣が滲み出てゐるのです。

「汚毒ツて奴だよ。この外にも僕はいろ／＼の病氣を脊負つてるんだ。僕は迎も長生は出来ねえ。自業自得だ。そりや諦らめちやゐるが、弟が可哀相だ。僕が死んぢまつたら、弟が、可哀相なんだ。」

と、ホロ／＼涙をこぼして、それが嵩じると果ては聲をあげて泣出す事なぞありました。いや酒の上ばかりぢやありません、瀬戸君は全く弟思ひでした。

たしか大正九年の秋だつたと思ひます。瀬戸君は大阪がどうも思はしく行かないで、東京に引あげる事となりました。その佗しい梅田の驛で瀬戸君を見送つた友人は、千葉君たつた一人のやうに聞いてゐます。

爾來十幾年、作物の要件で瀬戸君は屢々大阪にも見えましたが、私は再び飲合ふ機会がありませんでした。そんな次第ですから、久し振りに瀬戸君の寫眞を見たり談話を讀んだりして、そゞろに昔日が思出されました。然しその晩の夢に瀬戸君が暇乞ひに現はれたといふわけでもありません。

ところが翌朝、眼がさめて起きやうとする時、ふと枕頭をみるとサンデー毎日の224頁と225頁が昨夜の儘にあけてあつて、両手を机の端にかけた瀬戸君は、昨夜一晚まんじりともしなかつたやうに、黙々として占ひを續けてゐるのです。——と、云つたところで何の不思議もない、昨夜ひろげた儘の雑誌がその儘だつたのです。

が、私は妙に心を惹かれる思ひがしました。  
その日の午後、何かの用があつて歌舞伎座の地階に行くと、宣傳部の入口で田中牛耳郎君に會ひました。田中君は私を見るなり慍うです。

「瀬戸英一君が今朝くくなりましたよ。」

私はぎよつとしました。餘りに唐突だったので。私は瀬戸君の病氣だつた事も何も知らなかつたのです。田中君から所番地を教はつて取敢す用電は打つたものゝ、慍うなるとの寫眞がマザ〜と眼前に浮ぶやうで、その日は一日いやな思ひでした。

ところがその晩、寢床の枕頭をみると又しても22頁を展げたまゝのサンデー毎日が置いてあつて、瀬戸君は依然として占ひをやつてゐるのです。——家人は今朝あけてあつた頁だから、その儘をツと今夜も枕頭に置いたわけですけど、私はモウ一度その訪問記を讀反さないではゐられませんでした。(了)

# 役者系譜

紙魚庵

## 其の一 松本幸四郎の巻

初世松本幸四郎(延寶二年—享保十五年)  
俳名小見川のち男女川。家號大和屋。下總國小見川の人。元祿の始め江戸に出て久松多四郎の門に入り小四郎と云ひ、のち本姓を名乗つて松本小四郎と稱す。最初は若女形、若衆方にして、元祿九年七月森田座の二平親



王正門」に熊王丸を勤めて好評。同十二年夏若主役となり、荒事。死靈の輕業等に好評を得しが、同十四年正月市村座の『持統天皇都移』に大友の王子の敵役に絶讃を受け、正徳三年主役の上上吉に昇せらる。享保元年に至つて小四郎を幸四郎と改む。この頃より二代目團十郎と拮抗して益々名聲を高め、殊に同十一年春中村座の『門松四天王』に坂田金時の荒事を演じ絶大の好評を得。同十三年十一月中村座の『楠正成』も好評。總じて荒事と實事を得意として愁嘆場にすぐれ且武道をも能くす。享保十五年三月二十五日歿。年齡五十七歳。

二代目松本幸四郎

初世の養子にして幼名七藏。享保四年冬森田座にて初舞臺を踏む。同十三年女形となり同二十年市村座にて二代目幸四郎と改め家號をも高麗屋と改む。

○寶曆四年四代目市川團十郎相續。此の時實子幸藏に幸四郎の名を讓る。

○明和七年右實子幸四郎を五代目市川團十郎となし、自身は再び元の松本幸四郎に立歸り、同九年二代目市川海老藏となる。

三代目松本幸四郎

二代目の實子幼名幸藏。寶曆四年三代目幸四郎襲名。明和七年五代目團十郎と改名。

四代目松本幸四郎(元文二年—享和二年)

俳名錦考のち錦江。家號高麗屋。京都の人。始め初世瀬川菊之返の門下にして瀬川金吾と云ひ、延享二年江戸中村座へ色子として出演し、寛延二年若衆方となり、寶曆元年冬上京し、同四年冬瀬川錦次と改めて市村座に下り若主役を勤む。同七年四代目市川團十郎の門に轉じ市川武十郎と改名。翌八年曾我團三郎、小野瀬風に好評を得、その冬上京。九年冬中村座へ下り、同十年曾我五郎、翌春、曾我十郎、壘屋伊八等を當て、その十一月市川染五郎と名乗り、更に同十三年十一月市川高麗藏と改名す。後年ごとに名聲を高め、安永元年十一月中村座にて四代目幸四郎襲名し、同五年上上吉に進めらる。同七年中村座の座頭となる。寛政元年大上上吉。同六年極上上吉に昇格。かくて享和元年十一月幸四郎の名を、その實子に譲り男女川京十郎と稱したが、

翌二年六月二十七日歿。年齡六十六。藝風——容姿上品にして口跡に勝れ、且愛嬌に富み和事に長じた  
るが、一方また男達、相撲等にも適し、所作事にも巧みなりきと云ふ。而して色主役を最もその長所とせしが  
晩年には實悪にも成功せりと云ふ。當り役——會我十郎、重忠、源左衛門、帶屋長兵衛、幡隨院等を傑作とす。  
五代目松本幸四郎（明和元年——天保九年）

四代目の實子。俳名。金舛のち錦舛。家號高麗屋。幼名を純藏と云ひ明和七年正月中村座にて「春寶 東人  
形」の人形を初舞臺として、安永元年十一月同座で市川高麗藏を嗣ぎ、同七年子役より若衆役となり、天明三  
年冬立役に轉じ、寛政九年上上吉となる。同十一年實悪の首位に置かれ、享和元年十一月市村座にて五代目松  
本幸四郎を襲名す。爾後名實共に一代を壓し、文化五年至上上吉。九年眞上上吉。文政二年極上上吉。同十年  
眞極上上吉。天保五年遂に「古今無類」の位に昇進す。容貌鼻高く、眼著の鋭くして凄みあるを特長とし、俗  
に「鼻高幸四郎」と稱す。天保九年三月河原崎座の藤原時平役を最後とし五月十日歿す。年齡七十五歳。藝風  
——四代目團十郎と初代中村仲藏とを咀嚼して一家をなしたと云ひ初め父と同じく和事を本領とせしが、後實  
悪を得意とす。而して時代をも能くなせしが、殊に世話事に妙を得、寫實の演出法を創始して劇壇に貢獻せる  
ところ尠なからず。當り役——仁木彌正。武智光秀。幡隨院。直助權兵衛等を逸品とす。

六代目松本幸四郎（文化七年——嘉永二年）

五代目の實子。俳名錦子のち錦舛。家號高麗屋。幼名を市川高麗藏と云ふ文化十一年十一月市村座にて「世界  
花宮原傳授」に初舞臺を勤む。文政九年冬若主役となり親に劣らぬ達人と評さる。天保十年上上吉となり父  
そのまゝの評判をとる。弘化元年三月六代目幸四郎襲名。同三年十一月河原崎座にて俳名松本錦舛を藝名に改  
め、嘉永元年白大上上吉に昇進するも翌二年十一月歿す。年齡三十九歳。藝風——口跡に勝れ、父そのまま  
の演技なるも、たゞ徳なき爲、その名を高からしむるに至らずと評さる。

◎七代目松本幸四郎（明治三年——現存）

俳名錦舛、琴松。家號高麗屋。明治三年五月十二日伊勢に生る。幼時藤間勘翁（二代目勘右衛門）の養子とな

り、九代目市川團十郎の門に入り金太郎と名乗る。明治十四年十月春木座の「先陣館」に小四郎を勤めたるが初舞臺。同二十三年中村座にて市川染五郎となり、同二十七年歌舞伎座で名題昇進して、三十六年五月市川高麗藏を嗣ぐ。同四十四年帝國劇場にて「恭盤忠信」を勤めて七代目松本幸四郎襲名。藝風——現在、市川家荒事の随一と稱され、實事、實悪、所作事を能くし、團十郎の遺鉢を傳ふ。當り役——辨慶・矢の根。助六・大森彦七・幡隨院・素袍落。關の扇。その他（松本幸四郎の項終り）

△右日本百科辭典、歌舞伎研究第廿三輯、歌舞伎叢書に據る。

## 代表的荒事

本山 荻舟

歌舞伎十八番の内でも、代表的の荒事であることは、市川家九代の内、近世隨一の名優として、唯一人銅像になつた九代目團十郎の扮裝姿中、特にこれを選ばれたのでもわかる。

上方風の和事に對する、江戸風の荒事である。人間の情を表現する和事は、寫實から發足し、超人間の力を表現する荒事は、誇張に終始するのが當然である。現實を超越するところに、誇張の生命が宿るのであるから、荒唐無稽を妨げない道理であり、荒唐無稽であればあるほど、誇張に宿る生命が擴充し、超人間の威力が躍動するのである。

これ等の要素を現代人の多くは、「古風」の一語に片付けやうとする。現代に關聯のない古風だけなら、當然過去の亡靈に過ぎぬから、多くの現代人に共鳴されず、何等の感興をも惹かないといふ風に、解釋されるのも無理はない。

市川流の荒事とは、そんなものであらうか。決してさうではない。またさうあつてはならぬ。現代人の創造し

あるひは傳承し、あるひは推賞する藝術の多くが、兎角寫實に拘泥し、寫實の殻にくぐまつて、その域を脱し得ないのは、多くの現代人が現實に即して、現實以上の超世間に、跳躍しない爲である。現實社會の小天地に跼蹐する、蝸牛角上の争ひを、生活種々相のすべてだと思つてゐるから、人間はますます小さくなり、いちぢて、おびえて、末梢神經ばかり過敏な、無力世界に退轉するのである。

超人間の住む超世間を憧憬するのは、現實の無力に愛想をつかしあるひは憤慨して、勇奮一番、先づ強力な自己を確立して、自己の住む世界を強化しようとする、勇猛心の現はれである。誇張ではない、理想である。荒唐無稽どころから、やみ難い心の眞實相である。假にこれを古風としたら、かゝる心境を有ち得ない現代人は、古人の前に愧死しなければならぬ。

誇張もよし、荒唐無稽もよし、その裡に漲り溢れる氣力こそ、却つて現代に最も必要な、不退轉の精進力ではないか。この意味において、新しい生命の盛上る荒事であり、荒事を代表する「暫」の眞價であることを、再検討して認めなくてはならぬ。

市川の流れを汲む現代俳優中、最もこの役に適してゐるのは幸四郎である。堂々たる風格、朗々たる音吐、家の踊りで鍛へ上げた姿勢、正に當代の第一人者といはるべきであり、またいはれ、思はれてもゐることに疑ひはない。しかも、それでゐてなほ且全體の上に、びたりと來ないものゝ感ぜられるのは、第一に氣魄の薄いことではないか。堂々たる風格を有ちながら、どこかふやけて見えるといはれるのも、朗々たる音吐を有ちながら、どこかぼやけて聞えるといはれるのも、所詮はこの氣魄の足りないところに因由すると見なければならぬ。更に年功鍛鍊な舞踊家として、姿勢輪廓卓抜した線を有ちながら、どこか舞臺に釘一本か、楔子一片利かぬところがあつて、扇子なら要のゆるさを感じさせるのも、やはり同様の結果と見て悪いだらうか。

市川流以外では、羽左衛門もやり、吉右衛門もやつたが、若き日の吉右衛門のが印象に残つてゐる。これはすべてが氣魄で持つてゐた。氣魄の盛んなる者は、他のいろいろの短所をも、この一點で補ふことができる。「暫」役者ではないが、輪廓の整然たることに於ては、當代三津五郎に定評がある。



幸四郎の柄に、吉右衛門の氣魄をもたせて、角々を三津五郎の線で極めた上、いはゆる古風な狂言に附物の茶氣を、菊五郎の機智で補はせたら、おそろく無比の「暫」が出来上らうと思ふが、さうは間屋で卸してくれぬ中で最も多くの要素を備へてゐるのが幸四郎である。

江戸狂言の荒唐無稽を、馬鹿らしいといつて笑ふ客は、今の東京に澤山にある。底に潜む眞の力を發見して、實生活の糧にしやうとする客が、若し上方にあつたとしたら面白いと思ふ。

# 現實の室津

高原慶三

中村鷹治郎丈が大森痴雪氏の「望の港」を出すのですが、どつちかといへばこの芝居は年がいつても綺麗な鷹治郎が、後半ルンペンのやうなジ、ムサイ役をするので、自分一箇の好みから餘りいゝ感じがしなかつたのですが、播州室津の土地をうまく背景に扱つた點で、一應室津の土地を踏んで見て初めてこの芝居の捨て難なさを知つたのであります。



私の室津へまゐつたのはことしの二月廿七日の夜、てうど皇太子御生誕の奉祝最後の晩のことでした。姫路驛から六里ほどの道を自動車とばして、途中網十などの町を過ぎて、半島部の海岸沿ひに走つてゐる時は丁度舊曆の望の夜、春とはいへや、肌寒く、月は朧に家島などの島々を薄墨にぼかしてゐるのです。室津の村では御生誕奉祝で全村は踊り狂つて——といふより、うらぶれた海港にわづか四戸残つてゐる娼家の遊女三十人ばかりが假装してゐる村の廣場に踊つてゐるのを村の人たちが取まいて見てゐる、至て蕭條たる海港の夜でした。

わたしは村の西の端の海岸にある木村旅館といつて、村一ばんの旅館に自動車を駐めて、その廣間に通つたの



でありました。縁側の玻璃戸を開くと、灣内深く銀波をたぐえて、左手に室津明神の森が灣口を扼し、それから弓形に内海を抱いて、室津の家々の灯が四、五點々とするのを見ただけでありました。

それが丁度お芝居の「望の港」の後半の寂れ切った舞臺面をつくりなものでした。

そういへば、この木村旅館は芝居の金五郎の家だつた「西屋」の後に出来た新建ちなものでした。

凋落し切つた室津の港に、からうじて「西屋」を偲ぶ事は勿怪の幸ひでした。

◇

室津は昔から西國遊所の随一と知られ、その起源は輒に次ぐもの——或は神代からともいふ傳説がありますが——まづ室津の君として知られた花漆は平安朝の白拍子で、謡曲の「室君」によつて、恰も「江口」の妙と共に妓女得脱の典型的双美だつたのであります。それから鎌倉期に入つて、花漆に次ぎ妓名の高かつたのは友君、これは法然上人との佛縁のつながりをもつて聞こえ、今に友君の菩提寺といふのが室津に残つてゐるのであります。

◇

室津の傳説では友君とは旭將軍木曾義仲の寵姫（或は巴御前との競争者だつたかも知れない）で、義仲の胤を宿して懐胎し、室津に逃れ來て、村名主の西屋にかくまはれ、舞をもつて、嬌名中國筋を壓したといはれます。そうして、義仲の菩提を弔ふに香華をたやさなかつた。その香華の代りとして舞をもつて貴人の宴席に侍したから後世「花代」といふ言葉が出来たといはれてゐますが、これも里人の口碑で史外の史、信をおくに足りない。

◇

かうして室津は遊女の傳説ばかり、畫かれた餅を喰つて生活してゐる土地柄です。この傳説に血と肉を盛り上げて美化したのは、西御の「五人女」のお夏に現れ、「好色二代男」の一女に象づくつたのであります。大森氏の「望の港は」、時代をひき下げて、幕政時代から明治開化にまたがり、しかも夢のやうな傳説をや、現實に近づけた至極もつともらしい芝居になつてきました。

果して「望の港」の事實があつたかどうか、それも畫かれた「モチの港」かどうか知らぬが、今の眼で見た室

津には如何にもありそふな點で、室津文藝史の優に一頁を加へるものでせう。



# 鴈、吉梶原の比較論

辻田公紀

操りの高潮期に出来た淨瑠璃ものだけに舞臺面の配置、色彩等に最も留意されてゐるので、歌舞伎の舞臺でも極めて花やかで錦繪を展開したやうな一齣である。

由來其頃の作品……即ち三油大助紅梅約の出来た享保頃……には、此舞臺の色彩といふことに最も重きを置いて、總て絢爛な構想の下に舞臺を作ることに苦心されて居た結果誠に見た目が綺麗で眞に鑑賞意識を高潮させるやうに出来てゐる。殊に出雲、小出雲、三好松洛、長谷川千四、文耕堂邊りの作品は何れも之に充分の効果を齎らしてゐるのである。

それが歌舞伎に轉向してからでも其舞臺面が其儘に展開して、人形以上に演者の表情が役々に依つて仕活かされ、其考案に依る固性の表はれが夫々特徴を作つて爾こに一種の型なるものが生れ、より以上に鑑賞意識を咬り上げる。日本人は斯様にして芝居意識が養なはれ、觀劇智識が向上して來たのであつて、幾ら新しいものゝ流行る現代にも猶、且、全く劇に對する鑑識は全然此範圍を脱し切れないのは事實であつて、石切や寺子屋、妹背山の御殿、熊谷や盛綱の陣屋等々の演劇の亡さらないのは此所以である。

中にも此石切の梶原は一寸複雑な心腹を觀客によましめることに於て、松王や盛綱と又違つた意氣を見せる必要があるので一寸至難とされる舞臺である。



## 六月の映畫街

### 太宰行道

六月と言ふ聲を聞けば、所謂、夏枯れ、と言ふことが連想されるが、この六月は、ジャン／＼いい映畫が封切陣に殺到して來る。

先づ六月第一週に、パーバリズムの持つスリルを賣物にした猛獸争闘映畫「冤獄タイガー」が現はれて映畫街を引きかき廻す筈である。

是は、例の「マルガ」を作つたクライド・エリオットの決死的作品と言ふもの。これだけの澤山が、これだけ華々しい一騎打ちを見せるとこ

さればこそ文化の昔、當時浪花劇壇の大達者とされ正しく人氣の焦點になつてゐた大璃寛に之を演ぜしめんとして、仕打も鼈貞も大に之を懲罰したのであつたが、従來此役を中心として各役を一座の者に都合良く振られて演ぜられてゐることは、梶原其もの、役の正念を解し得ぬ行き方であつて、それ等は宜しく芝居を見せるのではなく、唯舞臺を見せるに止まるもので、苟くも舞臺を正念として精神を見せる役者の好くせぬ處である……と何うしても之を肯諾しない。爰に於て種々の主役で何れも世間の絶讃を浴びてゐる葉村家が、何故此役に限つてウンと云はなかつたかと質して見ると、此狂言の骨子とされてゐる石橋山の合戦時代は、梶原は却つて小身であつて、之に列座する大庭、侯野の兄弟は既に降々たる大身である。其執心せる利劍を梶原が試みて鈍刀の如く欺いて先輩を欺罔するといふのだから黜なくとも、先輩に對する後めた疾しさを持つ心持ちが、觀客に呑み込めなければ此役は唯金欄の上下を着てゐる木偶人に過ぎない。故に大庭、侯野に扮する役者は自分と同格、若くばそれ以上の格のある、寧ろケムタイやうな役者を拉致して來て勤めさせて呉れたら兎に角、依然として此兩役を自分の一座……部下のものに振られてゐるやうでは仕榮えがないといふ理窟から、又時節があらう……といふので遂に之を承諾しなかつたといふ逸話も残つてゐる程、それ程話は六ヶ敷い役であらねばならないのである。

故に今でも立てもの役者の立てもの藝として、餘りムザ／＼出る芝居ではなく先づ關西では鴈治郎を除いては一寸手にかゝりにくい役であつて、舞臺面の役々にも夫々適材を必要とする。舞臺面は見た眼で花やかな堂々たるものであるが、矢張り主役の主張としてはそれだけ苦心も多い譯であるから、迂滑には出來ない譯である。關東でも俳優は

ろに、興味がある。

白井専務が、動物の相模番附見たいなものをつくつたらごうや、の指令で、關西SYは必死の宣傳網を擴げてゐる。これと同様に、同じくフオックス映畫「流れる青空」が上映される。何時までも若々しく、そして何時も青春の乙女を演じて間違ひのないジャネット・ゲイナーが「第七天國」以來の甘美なロマンス見せる。

これを皮切に主な映畫を列べて見る

#### ▲キャバレーの鍵穴——

目下アメリカ映畫製作界を警倒させてゐる男、ワーナーナショナル映畫を今日あらしめた名プロデューサー、ダリル・ザナックが元老ジョセフ・M、スケネクと相組んでつくつた新興會社、廿世紀社の「パワー」に次ぐ第二回作品。コンスタンス・カミングスが主演で、ボウル・ケリー、プロツサム・シリイ。紐育女性スキヤンダルの主將格で最近死んだチキサス・ガイナン、ラヂオのスターナー、ラス・コロムボが助演して

澤山あつても此役を買ふて出る優は橋屋の羽左衛門と播磨屋位な處で、柄には遜色はなふても高麗家、高島家には聊か勝手が違ふかも知れない。

爾こで鴈、吉の此役を比較することが本記事の性根であるのだが、何れを善惡と決定することの出来ない梅、櫻、兩優互に把持する處の主張も違へば意氣も違ふ。随つて舞臺巧致にも夫々個性に基いて特徴を見せてゐるのだから、それを彼れは議論して見ても歸する處は見方の相違、贗眞々々の眼なり次第で善くも見へ悪くも見へやう。併しなから誰れが演つても梶原自身の性根には變化はないのだから、要まりは演者自身の考察に伴なふ工作に依つて、派手にもなり濛くもなり舞臺巧致にも少々の變化は免がれないそれが果して善いか、悪いかをこうした極め付けの芝居に、嘴を容れるのは野暮の骨頂、固より貫祿のない凡流の仕おほせる役ではない。

然れば何を比較するのか……といふ難詰がくる。爾こで床にのつて何ちらが何うする……といふやうな巨細なことを茲で書かうとすると幾ら紙面があつても足りないことになるから、爰では唯概括した見づらに就て聊か兩優の舞臺を想起して見るに止めたい。先づ成駒家の方から云ふと、彼優の特色が完膚なき迄に舞臺に横溢し、極めて花やかな舞臺面が繪のやうに展開して如何にも堂々たる大歌舞伎を想はしめる。併し何うしても鴈治郎の石切りで、梶原自體が彼優自身の性格に覆はれて、鴈治郎の技巧其ものが活躍する爽やかな絢爛をそのの、場面である。由來此優の舞臺は概して爾うにも見へるが殊に此石切や實盛に於ては最も然りである。

之に反して播磨屋の方は稍濛く内輪に行つて深刻な味を見せる。其代り成駒家の方のやうに豁然とした大まかな色どりでなく、何ちらかといふと少々陰鬱な梶原である。そ

る。紐育ナイトクラブとギャングのもつれを斷截した新鮮な興味に溢れてゐる。原作がプロード・ウエイ顔役ウォルター・ウインチエルであることでアメリカでは大變なセンセーションを惹起したと言はれる。

▲光は野より——

メトロの本年度代表作の一。リチャード・ディックスの主演、マツザ・エグアンス。コンウェイ・タールの共演で、多岐多端な物語と、ディックスの久方振りの熱技で光つてゐる

▲世界拳闘王

最も興味高いメトロ映畫。六月十四日を期して決行される世界重量選手權大會に於て一番期待されてゐる二人の巨人を相闘はせてゐる。現世界重量選手權保持者アリモ・カルネラとこれに挑戦する唯一のブル・フアイターたるマツクス・ベアがスクリーンのリンクでライオンと猛虎の如く火花を散らして戦ひ、レフリーとして、ジアック・デムブシイが活躍してゐる。

これに、ウォター・ヒューストン

◆ 部 劇 樂 竹 松 ◆

旋 凱 の れ 晴 ら か 洲 滿

レヴュー使節 松竹ガクゲキ部が晴れの凱旋をした——大西部長、田邊理事はじめ、女生徒 百餘名を乗せたレヴュー船うすりの丸は、神戸港に三日午前七時半入港。新装の高架梅田驛に到着 茲に目出度解散したが、大西部長は次の如く語つた。

「大連協和會館で廿六日より五日間公演しましたが、本格的レヴューは、あちらで最初のことであり、非常な好評でした、レヴューだけに、内地人、滿洲人、外國人の別なく喜ばれたのが何よりです。滿洲全體はレヴューの有望な進出地であります、現在の處レヴューを完全に上演し得る劇場が少いのが残念です。何にしても、これを機にガクゲキ部も一層の躍進を試みたいと思ひます。」

◇ 大 西 部 長 の 土 産 話 ◇

して極めて細かい。何うかすると餘り人に氣付かれないやうな技巧がある。一方が幅広く全幅に美感を盛り上げやうとすると、一方は成るだけ極所を高潮して美感を集中しやうとしてゐる處に相違のあることを見る。

併しながら大璃寬の主張した大庭、俣野の兄弟を、左程重視して居らないのは兩優を通じて同様であつて、只管自身の舞臺を見せることに萬全を期して工風されてゐることに變りはない。

是を彼れ批判し、役の性根などを穿鑿することは議論になるから避けることゝするが、要するに一方が笹蔓、牡丹の金欄なら、一方は金茶地の金欄で、共に貴重な存在であつて、古典氣分を回想し懐かしがらるゝ、昨今、斯うした劇の上演さるゝことを嬉しく思ふ他はないのである。

のマネジャー。マリーナ・ロイの戀人最近メキ／＼賣出しのオットー・ワルーゲルのギヤングの親分。監督は搖ぎなき名聲に輝くW・S・ヴァンダイク。拳闘ファンは勿論、凡ての人が話題としてぜひ見る價值がある。

▲ ドン・キホーテ —

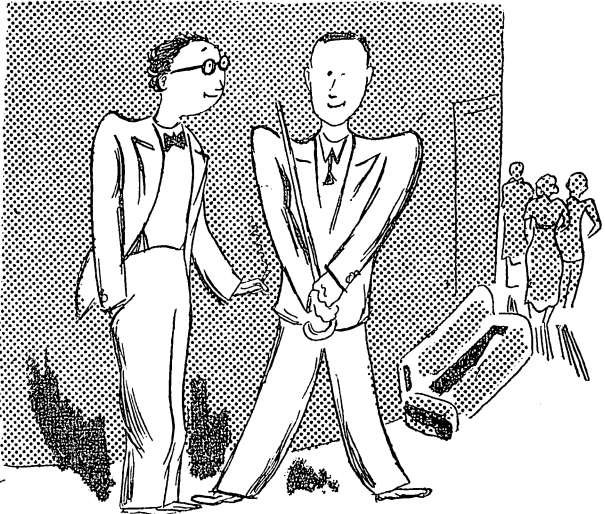
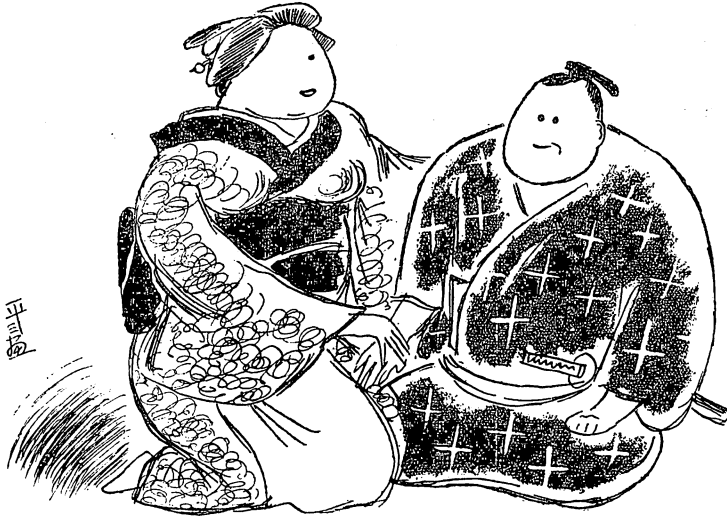
映畫が持ち得る恐らく最大最高のスタッフに基く名畫。世界一の聲樂家フェードル・シヤリアピンが主演して、豪岩な演技を以て、時勢と背馳せる、英雄的ロマンチズムの悲壯美を描いてゐる。セルバンテスの原作をフランス文豪ポール・モラーンが脚色し、ジャック・イベルが是に作曲し、フランス劇壇の耆宿ドルヴイル、久方振りに明眸端麗のアルレッド・マーシヤルが助演してゐる。そして監督が側の曲者G・W・パブストであるに於ては、實に完璧のスタッフではないかぞ。

音樂ファン、文學ファン、映畫ファン——いろいろのファンが、興味かけ得る無双の名畫である。

▲ 青空天國 —

西郷とぶた姫 妹背平三

「お、嬉れしッほんまに夫婦になつとくれヤスヤ」  
 「よか〜アバウトがよか」  
 成程この二人合せて體重七十貫！なまやさしい  
 ニッポン家では...



石切梶原

妹背平三

「切りも切つたり...ごうや成胸屋ソツクリやろ」  
 「あかん〜なんば名剣でも刀で石が切れるかいナ」  
 「切れるとも！會社のおやじは紙一枚でクビ切りよ  
 せ〜」

最近急角度に躍進の姿を見せてお  
 るコロムビア映畫で、「一日だけの  
 淑女」と言ひ、この映畫と言ひ、先  
 輩バラマウント、フォックス、メト  
 ロ〜一寸ごうかなと思はれる鮮や  
 かな出来榮えてある。

監督は、「第七天國」「戰場よさら  
 ば」のフランク・ホサージ。主演は  
 スペンサー・トレシイ。ローレッタ。  
 ヤング。

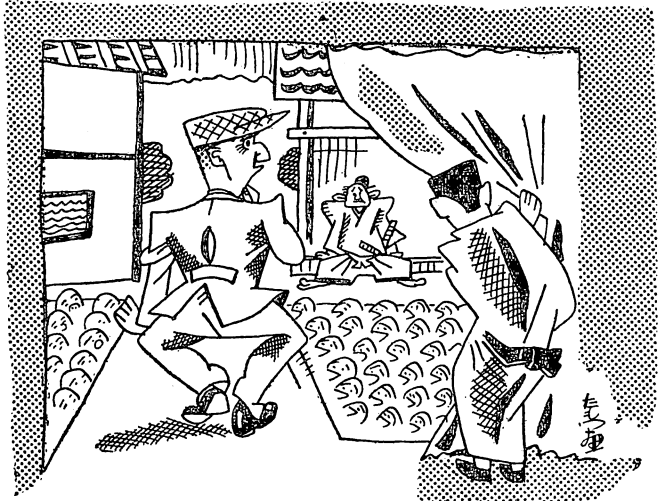
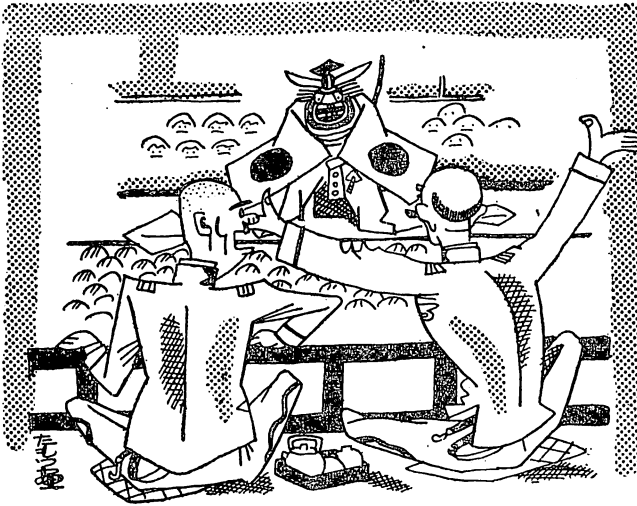
人に失望し、都會に失望したスペ  
 ンサー・トレシイと、その愛しき妻  
 ローレッタ・ヤングとが夜を走る貨  
 物列車の屋根の上で、きらめく星を  
 眺めて、楽しい希望を語るラスト。シ  
 ーンは、近來一寸ないリリシズムの  
 匂ひに輝いてゐる。

以上の他に、獨逸ウファ映畫「お  
 洒落王國」(ウイリイ・フリツチ。ケ  
 ート・フォン・ナギイ主演)、同じく  
 ウファ映畫「朝あけ」(ルドルフ・フォ  
 スター主演、ゲスタフ・ウイッキイ  
 監督バラマウント映畫「ボレロ」ジ  
 ョー・ラフト。カロール・ロハバード主  
 演フォックス映畫「フリーブラ」(クラ  
 ラ・ウボ主演)——がある。

# 非常時暫

大槻たもつ

鎌倉権五郎が日の丸の大袖をひるがへして「しばらくッ」と飛び出したトタン観覧席の兵隊さん「ヨーツ待つてました」斯んな非常時歌舞伎風景!!



# 得意の早替り

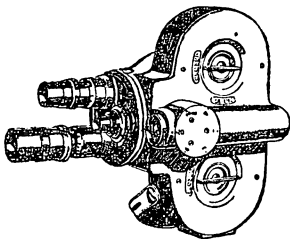
大槻たもつ

早替り得意の彼丈妙技神に入り過ぎて化粧おとした歸り仕度に迄早替り喜んだ見物「ヨーツ大統領ツ……」

# フィルム

十六ミリ界の  
最高峰

未だ曾てフィルム  
カメラで撮影して失  
敗があつたか？  
未だ曾てフィルム  
カメラで一呎のフィ  
ルムが浪費された  
か？フィルムは映畫  
カメラなると同昔に  
最も優秀なるカメラ  
マンを兼ねボタンを  
押し給へ 貴下のだ  
される事は唯それだ  
けだ



(全一カメラ店にありカロッタ進呈)  
BELL & HOWELL CO. U.S.A.

◆◆ 編輯後記 ◆◆

村上勝

◆先月は、田中君、今月號は僕と、これでは編輯者は道頓堀のスカイ・サインの様であるが、ともかく僕が、今後は本格的に仕事を續けたいと希つてゐます。

さて本月の劇場街は、歌舞伎座が東西合同大歌舞伎の豪華版、中座が家庭劇の快笑オール新作陣、角座は、續演の新派劇が、地上の星座前後篇の上場、氣を吐いてゐる、本誌も、こうした、各座の陣容によつて編輯はした次第です。

◆グラフは成るべく新しいものを使ひたいと思つてゐる。古るいものでは意味がないデス。一日初日の寫眞を撮つて、五日前後に、愛讀者諸氏にお目にかけるのですから、編輯も亦なか／＼楽しいやないです。——と思ひませぬ

かれ。

◇さて、本誌も愛讀者諸氏の支持によつて、堂々九十三輯まで發行しましたが、近き第百號は特別記念號として大々的なもの發行する豫定であります。

◇先月號に田中君がお知らせして居りましたが道頓堀講演部は愈々準備をしました。食滿南北、大西利夫、山上貞一、鳥江鏡也の諸先生が、それ／＼演劇に關しての講演されますから、この種の催物の有る場合は是非御申込み下さい。

◇尙、浪花座は月初めが浪曲大會、七日頃より柳家金語樓の實演と決定しましたが、締切に間に合はず、本誌に寫眞及び記事が紹介できなかつたのを残念に思ひます。

◇南座は東京松竹少女歌劇ですが、グラフは「タンゴ・ローザ」を省き、「シャポーブラン」をのみ載せました。

昭和九年六月一日發行

月刊「道頓堀」第九十三號

◇誌代は前金でお拂ひを願ひます。  
◇郵券代用は一割増にて御註文を願ひます。  
◇御相談の上廣告掲載の需に應じます。

廣告取扱所

大阪電報通信社

廣告の御用は電通または當編輯部廣告係へ御申越下さい。  
大阪府北區中之三丁目

一部 金參拾錢 (郵便五厘)

昭和九年五月廿八日 印刷  
昭和九年六月一日 發行

大阪府南區難波新地三番町

發行所 鳥江鏡也

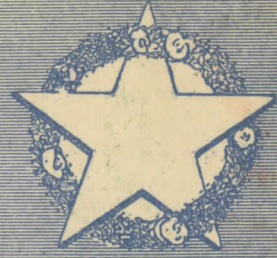
共同編輯 山上貞一

印刷所 道頓堀社印刷部

大阪府南區難波新地番町  
(大阪歌舞伎座内)

松竹興行株式會社大阪支店  
發行所 道頓堀編輯部





姉妹品

スキナ紙白粉

スキナ石鹸

スキナあぶら取紙

スキナ

巻頁元

朝日堂株式会社

本 册

中田スキナ屋

大 阪

昭和二年十月廿五日 第三編 郵便物部  
 昭和九年五月廿五日 第三編 郵便物部  
 昭和九年六月一日 第三編 郵便物部

# ウテナ雪印クリーム

初夏は地肌から……サラツと純白く

純白、無脂肪のウテナ雪印クリーム

特に、夏の地肌に快い

朝のお化粧下

おヒゲ剃り

ニキビ等のできぬやう  
 要心しませう、初夏の肌  
 朝の雪印に色白く  
 夜の花印に美しく

ウテナクリームの四種  
 雪印(無脂肪) 三十二錢・六十四錢  
 月印(中性) 五十三錢・七十五錢  
 花印(脂肪性) 五十五錢・一箇十錢  
 レモン 三十錢・六十錢

ウテナ水白粉  
 ウテナ粉白粉  
 三十二錢・五十三錢



「道新報」第九十三號 前九年六月號

一部 金 参 合 費